

FFG調査月報

MONTHLY REPORT

あなたのいちばんに。
FFG 福岡フィナンシャルグループ

3

2025
VOL.170

Top Interview

株式会社 サンリブ 代表取締役社長 眞田 義文 氏

東洋ホイス ト 株式会社 代表取締役社長 東谷 卓哉 氏

株式会社 共立自動車学校 代表取締役社長 長島 正太郎 氏

東販産業 株式会社 代表取締役社長 舘林 貴宏 氏



今月の

表紙

熊本銀行

多良木支店

今月の表紙になった支店をご紹介します!



松本 大和 (まつもと・やまと)
2019年入行 (多良木支店1年目)
総合営業
■趣味・特技: 野球
■休日の過ごし方: ドライブ、アウトドアスポーツ



奥山 智哉 (おくやま・ともや)
2021年入行 (多良木支店1年目)
FC
■趣味: 海外サッカー観戦、温泉、サウナ
■休日の過ごし方: ドライブ、温泉 (サウナ)

私たちが
お答えします!

Q 多良木支店の特徴は?

松本 比較的新しい店舗で、屋根にソーラーパネルが設置されています。駐車場には多良木町で多く飾ってある恵比寿様の像があります。

奥山 多良木町の中央に位置しており、周りには多良木駅や様々な恵比寿様の像があります。店内もきれいでとても過ごしやすい店舗だと思います。行員、スタッフの仲が良く、年始の書初や地域の祭りへの参加など多良木支店全員で楽しんでいます。



Q 多良木は どんなところ?

松本 四方を山に囲まれていて自然豊かです。名前の通り昔から良い木が多く、林業が盛んな地域でもあります。



Q 多良木の おすすめスポットは?

奥山 くま川鉄道多良木駅の近くに「フルートレインたらぎ」という宿泊施設があり、かつて東京ー熊本間を走った寝台特急「はやぶさ」に宿泊することができます。また、温泉もいくつもあり休みの日に満喫しています。おすすめは湯前にある「温泉 湯楽里」です。

松本 隣村の水上市は、今年の箱根駅伝優勝校に関わる、あることで一躍全国的な注目を浴びました。他にもとりとえきれない湯質の湯山温泉や、市房ダム湖畔を彩る一万本桜、市房山キャンプ場等があり、おすすめの村です。



水上スカイヴィレッジ



Q 多良木の 名物は?

松本・奥山 「球磨焼酎」が有名で、酒蔵が多いです。焼酎だけでなく色々な種類のお酒が製造されていて提酒造の「OKA GIN」は世界大会(2024年サンフランシスコ・ワールド・スピリッツ・コンペティション)で1位をとりました。





前列中央が小田支店長

Q 今日のお昼ご飯は？

松本 「旭屋」の明太バター釜玉うどんミニカツ丼セットです。



Q 支店での地域貢献活動を教えてください。

松本・奥山 町の中心部にある恵比須神社で毎年10月に開催される「えびす祭り」に参加しています。御輿行列が町中を練り歩き、大人御輿の上で球磨焼酎の一升瓶を代わり代わりに飲む儀式は迫力満点です！



読者にメッセージをお願いします。

松本 多良木町は自然豊かでお酒がおいしく、スポーツも盛んで元気な人が多い町です。ぜひ一度遊びにお越しください。

奥山 多良木町は自然豊かな場所で温泉や観光地もあり、楽しい町です。多良木町がある球磨地域はお酒が有名でたくさんの酒蔵がありますのでお酒好きの方は特に楽しめると思います。是非お越しください。



熊本銀行 多良木支店

住所：熊本県球磨郡多良木町多良木985-3

懐かしい
情景を
探して

Looking for a nostalgic scene

米どころの桜並木



▲徐福サイクルロード



▲上、徐福が植えたという樹齢2200年のビャクシン(新北神社)／下、吉野ヶ里遺跡



▲中国から贈られた徐福像
(新北神社)

●徐福サイクルロード

住所：佐賀市南佐賀～
佐賀市諸富町為重

●新北神社

住所：佐賀市諸富町
為重1073



四月初旬、諸富町の田園地帯に約5kmの桜並木が出現する。旧国鉄佐賀線(※1)の跡地を利用した、人と自転車のための並木道「徐福(※2)サイクルロード」だ。木陰が続く絶好の散歩コースとして地域の人たちに愛され、遠足で訪れる子どもたちの思い出づくりに一役買っている。

開花を合図に麦の生育も活発になり、平野を渡る風によつて波のように穂を揺らす。麦刈りが終われば稲作のために水を張り、やがて梅雨がやってくる。大昔から続く佐賀平野の原風景だ。

かつて始皇帝の命を受け渡来した徐福さん一行は有明海沿岸の諸富に上陸し、北部の金立山(※1)で探し求めていた薬草と出会ったという。弥生時代のこの頃、近くの吉野ヶ里の人々は持ち込まれた文物や技術に大いに驚かされたことだろう。

(※1)1987年に廃線
(※2)紀元前210年、始皇帝の命で仙薬を求め東方に船出し、その後帰国しなかったため日本各地に徐福伝説が残る

(文・阿井川 圭)

今後のより良い誌面作りの参考とさせていただくため、アンケートのご協力をお願い致します。



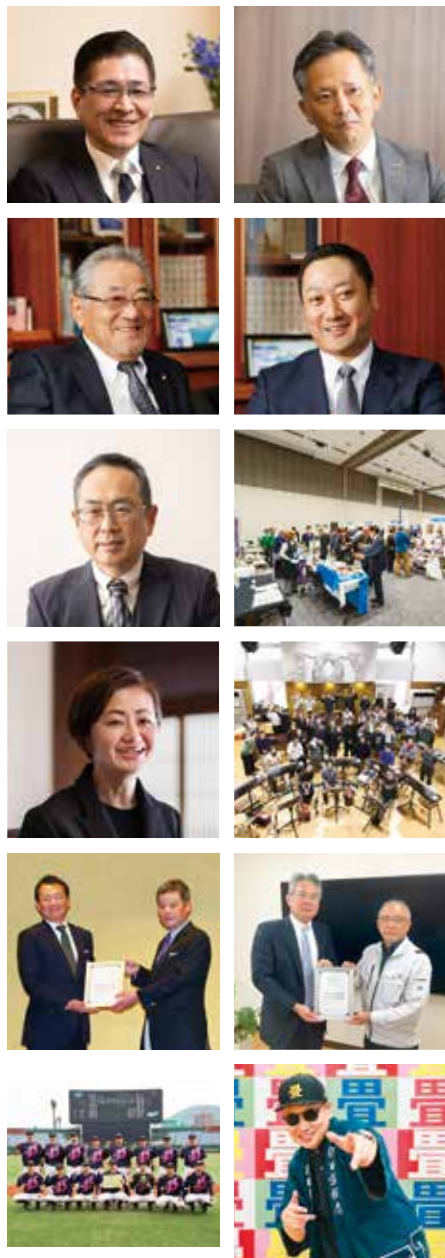
<https://prod.qlr.jp/tlmtwdxg>

今月の表紙
熊本銀行 多良木支店

- 2 懐かしい情景を探して
米どころの桜並木

Top Interview

- 4 福岡銀行
株式会社 サンリブ 代表取締役社長 眞田 義文 氏
- 10 熊本銀行
東洋ホイスト 株式会社 代表取締役社長 東谷 卓哉 氏
- 16 十八親和銀行
株式会社 共立自動車学校 代表取締役社長 長島 正太郎 氏
- 22 福岡中央銀行
東販産業 株式会社 代表取締役社長 舘林 貴宏 氏
- 28 地域とつながるFFG連携プロジェクト
「ながさき食のメッセ」開催！
～しまの産品振興プロジェクト成果報告会及び展示商談会～
- 30 地域と共生するFFG
株式会社 御花 立花家18代・代表取締役社長 立花 千月香 氏
- 36 誰もがゆたかな世の中に **NEW!**
音楽とアートで障がい者の未来を照らす
JOY倶楽部
- 42 海外駐在員事務所が伝えるグローバルの今
香港
- 44 九州企業のサステナビリティ
株式会社 八芳園エリアプロデュース警固 代表取締役 井上 義則 氏
株式会社 中央環境 代表取締役 上田 恭久 氏
- 52 FFG Victory Road
十八親和銀行 野球部
- 56 お城巡り
関東編
- 57 長崎だより
亀山社中ば活かす会
- 60 九州の星
株式会社 徳田畳襖店 畳職人&畳屋ラッパー 徳田 直弘 氏



バックナンバーの
お知らせ

「FFG調査月報」のバックナンバーは、ふくおかフィナンシャルグループのホームページにてご覧いただけます。





 福岡銀行

西日本有数の規模で
店舗を展開し地域に貢献する
スーパーマーケットチェーン。

株式会社サンリブ

代表取締役社長

さなだ よしふみ

眞田 義文 氏

取引店／福岡銀行 北九州営業部
熊本銀行 本店営業部

■会社概要

設立:1955年／所在地:北九州市若松区／資本金:5,000万円／従業員:6,053名(2024年12月現在)※グループ合計6,344名／事業内容:食料品・衣料品・住居関連品等の総合小売業／関連会社:関門食品株式会社、サークルフーズ株式会社、株式会社カーニバル、くきのうみ開発株式会社

会社ホームページは
こちらからどうぞ！





本社事務所前(左から眞田社長、五島頭取)

各地に戦禍の跡が残るなか 地域の人々に食べ物を供給

株式会社サンリブは、広島、山口、福岡、佐賀、大分、熊本、宮崎の7県において123店舗を運営し総合小売事業を展開しています。現在、本社は北九州市にありますが、創業の地となったのは大分県別府市でした。終戦の翌々年、1947年に設立された「別府漬物佃煮有限公司」が当社の原点です。会社を立ち上げたのは、創業者の一人である菊池清治^{きくちせいじ}。当時の国内は戦禍で焼け野原が到る所にまだ残っているような状態にあり、統制下で欲しい物資が簡単に手に入らないなか、誰もが空腹を抱え、食べ物を求めてさまよっていた時代でした。ですから、ようやくかき集めた食材をもとに製造した漬物は飛ぶように売れたそうです。そして、会社設立から2年後の1949年には、食品市場や卸売市場で知り合った野村勇次^{のむらゆうじ}、三村政一^{みつむさし}、菊池有^{たけうち}、菊池照市^{てるいち}、佐藤和七^{さとうわしち}と6名の共同事業として、山口県下関市で漬物の製造と販売を手がける「関門食品株式会社」も立ち上げます。この会社は、今も当社のグループ会社として事業を存続しています。

当社の初期の店舗名は「まるしよく」で、丸の中に「食」の字を入れたロゴマークでした。

これは、日々の食生活に困り、お腹と心を満たしてくれるものを渴望している地域の人たちに、笑顔になる食べ物を届けたいという想い、あるいは使命感が創業者たちの原動力であることを表しています。また、求められるものを提供すること、より豊かな暮らしを実現していきたいという願いは、今に続く当社の歴史における根底に流れる精神といえます。

個人経営では実現できない 資本金と組織力を生む共同事業

戦後の混乱期に起業するだけの資本金を各自が持ち得なかったからこそ、資金を持ち寄り、力を合わせて共同事業を立ち上げるといふ、やむにやまれぬ事情が、権力を特定の個人に集中させることなく平等性を貫く事業スタイルを生んだわけですが、そのことから、個人経営では困難な局面においても、助け合いながらも成長していける分社制を選択しました。

つまり、共同事業の手法で進めた店舗戦略によつて、各人が店舗のオーナーとなり、一国一城の主となっていました。事業エリアも、広島、下関、北九州、福岡、中津、熊本、別府、大分、宮崎と拡がり、例えば同じ大分県内でも「中央丸食」「中津丸食」など複数の会社を立ち上げて



5



3



1



6



4



2



眞田社長

いきました。ちなみに、私自身は1984年に株式会社中津丸食へ新卒入社し、社会人としてのキャリアをスタートさせました。

店舗名の「まるしよく」も、店舗で取り扱う商品が増えていくにつれて、1966年に「ファミリースーパー マルシヨク」、1972年に「ショッピングセンター マルシヨク」へと変わっていき、1981年には、既存の中型店に対し、充実した食品類に加えて、広い衣料品売り場を有する大型店を「サンリブ」の名で運営するようになりました。

その後、平成期に入って、財務体質の改善と営業力の強化を目的として、1998年に広島県、山口県、福岡県エリアの店舗を株式会社サンリブへ、2001年に大分県、熊本県、宮崎県エリアの店舗を株式会社マルシヨクへと集約。さらには、2016年の熊本地震によって複数店が

被災したのをきっかけに、株式会社サンリブと株式会社マルシヨクの合併が2017年に実施され、今に到っています。株式会社サンリブとなつてからも、創業者たちが築いてきた経営理念は尊重され、共同事業の精神に徹し、すべての社員が経営参画の心をもつよう説いた「総員経営」の考えは、変わらず大切にされています。

地域の特性に応じた 6タイプの店舗業態

暮らしに寄り添うマーケットを目指し、地域で求められる品揃えによってお客さまの利便性を高めたいと考える当社では、出店エリアの特性に応じて6タイプの店舗業態による店舗展開を進めており、そこそが当社のビジネスにおける大きな特色といえるでしょう。

当社の運営する店舗のおおまかな区分けとして大型店のサンリブ、中型店のマルシヨク、小型店のサンクがありますが、近年これらに加えて新たな店舗業態として新規出店を開始させたものの一つが「サンリブBUONO^{ブオノ}」。既存店舗に比べて高品質かつ高付加価値商品を多く取り揃えているのが特徴です。

一方で、対称的に比較的リーズナブルな価格帯の商品を扱う店舗として出店したのが「リブ



1.対談風景／2.3.テストキッチンを見学／4.商品部のフロアを訪問／5.移動スーパー「とくし丸」を見学／6.とくし丸で商品を手取る五島頭取／7.とくし丸で買い物を楽しむ地域の皆さま／8.若戸大橋を背景に記念撮影／9.高付加価値商品を取り揃えるサンリブBUONO萩原店／10.マルシヨク三次店の広々とした店内(広島県)／11.企業メッセージ





最前列左4人目から、眞田社長、五島頭取、岸原北九州営業部長（福岡銀行）

ホール」です。こちらでも地域のニーズに合わせた商品構成を打ち出しています。

更に、昨年7月の出店以来、ユニークな試みとして注目されているのが、「ローソンマルショク」。スーパーマーケット（SM）とコンビニエンスストア（CVS）は、小売業界ではこれまで「競合どうし」と見なされてきましたが、それぞれの強みをミックスすることで、新たな利便性をもたらす店舗になると、私たちは考えています。豊富な品揃えに生鮮食品の取り扱いといったSMの強み、それに、狭小地での出店適性、24時間営業といったCVSの強みをかけ合わせることで、新規顧客層の獲得を狙える店舗業態を目指しています。

企業の社会的責任として 地域社会の課題に向き合う

鮮度などの面から地域でしか流通しない地場商品を取り揃えてお客さまに満足していただけるのは、地域密着型事業に徹する私たちの大きな喜びです。そのために、生鮮売り場などにおける対面販売など、活気ある売り場づくりに日々取り組んでいます。

それと同時に、消費者の生活スタイルと家族形態の多様化、地域の過疎化、国民の高齢化

などの理由によって、店舗へ足を運べないお客さま、来店はできても購入した品を持ち帰れないお客さまにも、お買い物を楽しんでもいただく手段を用意するのが、私たちの使命であると捉えています。

具体的な施策として、スマホやタブレットでいつでもお家で注文でき、ご自宅にお届けする「サンリブネットスーパー」、店舗で購入した商品とその日のうちに当社の宅配便でお届けする「くらしくらく便」、日々の買い物が困難な地域に移動販売車を派遣して買い物支援をおこなう「移動スーパーとくし丸」といったサービスを提供しています。とくに移動販売事業では、外部事業者の協力を得て、熊本、大分、福岡の各県合計で九州最多となる23台を稼働させる成果（2024年12月時点）を挙げています。更に2025年4月には、熊本の泗水店^{しすい}で24台目を開業いたします。

軽トラックに平均400品目、約1,200〜1,500個の商品を積み込み、テーマソングを流しながら事前に決まったお客さまの自宅前まで訪問し、移動が難しい方にも商品を手に取って買い物を楽しんでもらっています。

これらのサービスは、事業の採算性から考えれば大きな利益を生むものではありませんが、企業の社会的責任として正面から取り組む

必要性を感じており、地域の行政機関も対策に苦慮している「買い物支援」「地域の見守り」「食のライフラインの確保」、さらには共同事業者を募る過程で「社会貢献型事業者創出への貢献」につながる有意義な活動と考えています。

移動スーパーとくし丸テーマソング

※音源のご利用に関してはリンク先の「とくし丸テーマソング利用規約」をご確認ください。



地域の暮らしに寄り添う存在として

今後を見据えた経営計画としては、「地域性の強い地場企業との結びつきを活かした事業エリアの最適化とドミナント形成」「各店舗業態の見直しや変更を通じた効率化」「共同配送による輸送効率向上」を始めとして、キャッシュレス化推進、AIを活用した自動発注システム、IDPOSによる顧客・商品分析といった一連のDX、人材育成など、改善策に一つ一つ、段階的に取り組んでいきます。

そして、そうした進化のための活動を通じて、これからもいっそう、地域に合った品揃えで多くの方の暮らしに寄り添いながら、地産地消を推し進めて地域の良い商品に光を当て、地域に貢献できる存在を目指してまいります。

インタビューを終えて

福岡銀行 取締役頭取 五島 久



「サンリブ」という社名には、「太陽のように人々の生活の隅々にまで光を投げかけ、より豊かな暮らしを実現させていきたい」という願いが込められているそうです。地域密着型事業に徹してこられた当社の歴史、そして、日々の買い物が困難な地域に買い物支援移動スーパー「とくし丸」を派遣するなど、現在の取り組みにも、一貫した地域への強い想いを感じます。

創業時の想いを引き継ぎながら、「地産地消」で豊かな暮らしを目指す当社の挑戦は続きます。店舗戦略、DX、人材育成などの取り組みに、当社のこれからの成長軌道が見えてきます。



トップに聞く!

 熊本銀行

クレーンのオーダーメイドに対応
「想い」や「重い」を運ぶ
企業であり続ける。

東洋^{とうよう}ホイスト株式会社

代表取締役社長
東谷^{ひがしや}卓哉^{たくや}氏

取引店／熊本銀行 福岡営業部
福岡銀行 本店営業部

■会社概要

創業:1923年／設立:1958年／所在地:福岡県糟屋郡新宮町／資本金:6,000万円／従業員:90名／事業内容:荷役機械の製造販売及びメンテナンス(電気ホイスト・ホイストクレーン・ごみ供給クレーン・船用クレーン・搬送機器・特殊機器)／事業所:本社営業部、東京支店、大阪支店、船用事業部

会社ホームページは
こちらからどうぞ!





本社前(左から東谷社長、坂本頭取)

豊富なラインナップと オーダーメイドを強みに Aークレーンの開発にも挑戦

東洋ホイスト株式会社の「ホイスト」とは、「持ち上げる」「吊り下げる」という意味があります。当社ではその名の通り、重量物を吊り上げて搬送するホイストクレーンなどの開発研究、設計、金属加工、組立制御、そしてメンテナンスまでをトータルでご提供しています。

国内のホイストクレーンメーカーのなかにおいて、当社は豊富なラインナップとお客さまの声にお応えするオーダーメイドの製品づくりを得意としています。例えば工場などの建屋の高さが低い場合には、ローヘッドでコンパクトなホイストが求められます。当社のラインナップにもローヘッドホイストを多数用意していますが、さらに「超ローヘッドなものがほしい」というご要望があればスピーディーに対応。長さや動作スピードなど、ご要望に合わせた細かなオーダーに応じており、コストも過去に培った技術を駆使する事でリーズナブルに設定しています。さらに、製造後のメンテナンスにも

力を入れており、この部門だけで年間12億円ほどの売上げを計上し、長くお使いいただけるためのアフターフォロー体制も当社の強みになっています。

最近では、SDGsの観点からもごみ処理施設の効率化、稼働力アップが求められ、高性能なごみクレーン・環境クレーンの需要が非常に高まっています。特に注目されているのが、自動化、省人化を目的とする「Aークレーン」です。当社でも福岡市東区にある九州産業大学様と連携して開発を進めています。私たちが目指すのは、昼間のうちに人間が作業した運転をAIが学習し、夜間に人がいない時にも同じように稼働できるクレーンの開発です。現在は、「ニーズがどこまであるか」といった第一段階である現場の現状把握が終わり、次のステップに進んでいるところです。

3度頭を下げて後継者に 父の他界で突然の社長交代

私が父・東谷典章が社長を務めていた東洋ホイストに副社長として入社したのが2018年4月になります。父はその翌年に他界し、





東谷社長

2019年12月に私が代表取締役就任しました。父の病気のことは分かっており覚悟もしていたのですが、こんなに早く社長交代になるとは思いませんでした。

もともと大学を卒業後、産業機械専門商社に入社し約18年間営業として働いておりまして。父からは「跡は継がせない」と言われており、私も当時はそのつもりは全くありませんでした。

ところが次第に経営に興味を持ち人生最後は父と仕事したいと強く決意し、里帰りした際に「会社を継ぎたい」と父に告白しました。もちろん父は、即座に却下。2度断られ、3度目に頭を下げた時に、ようやく父が渋々了承したものの、「経営は甘いものじゃない。

後継者になるなら親子の縁を切る」と宣言を受けたのでした。

入社して半年間は工場内でもものづくりの現場を経験。その後は父について経営について学びました。父は就任当初から会社の借金の返済などもあり、必死で働きトップダウンの経営を行っていました。しかし、業績の回復とあわせ時代とともに会社の在り方も変わり、父も時代に合わせた経営の必要性は感じていたようで、私には「あなたなりの経営をなさい」とアドバイスをくれました。

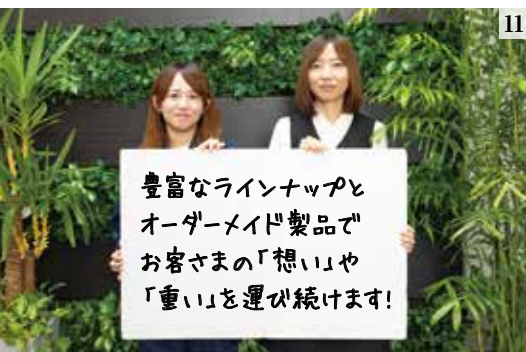
「企業は人なり」

人財育成と女性の活躍をサポート

当社では、人材を「人財」と捉えています。

「企業は人なり」という言葉がありますが、その言葉通り私は「人財育成」こそ、会社の成長には不可欠だと考えています。

社長就任後に、新経営理念として「会社はみんなで創りあげる」を私たちが目指すビジョンとして掲げました。これは、「個人の成長、社員が主役の会社でなければ会社の成長はありえない」という意味があります。



11 9



7



8



10

- 1.対談風景／2.ペアワーク出勤スペース／3.社内に周知している格言「今月のひとこと」を見学／4.「今月のひとこと」／5.社内を見学／6.友納取締役と談笑／7.工場内を見学／8.ごみクレーン用パケットの重さを体感／9.クレーンとなる素材を確認／10.工場内上部に設置しているクレーンを見上げる／11.企業メッセージ



前列左2人目から友納取締役、村上常務、東谷社長、坂本頭取、錦戸福岡営業部長（熊本銀行）

そして私たちが目指す道、つまりミッションとしては①クレーンを通してお客さまへ「想い」や「重い」を運ぶ企業であり続ける、②全てが平等で差別なく開かれた企業であり続ける、③人間として品格があり、個の努力を称えあう企業であり続ける、の3つを掲げました。

人財育成について、私が最も力を入れて取り組んだのは女性の活躍です。私が入社した当初は女性社員がわずかに4名のみ。ダイバーシティの考え方が浸透しつつある中で、製造業においても女性の雇用は必要不可欠であると考え、女性が働きやすい環境づくりに取り組みました。

その一つが、人財開発部の「女性活躍推進センター室」の設置です。ここには経験豊かな専任スタッフが常駐し女性社員が仕事や家庭、子育て、その他プライベートで悩んでいることを相談できる相談室であり、職場と家庭生活の両立を図れる環境づくり、キャリアアップ制度の活用などをサポートする役割を持っています。

さらに「ペアワーク出勤」や「パートナー制度」も新設しました。「ペアワーク出勤」では、

お子さんが急な発熱などで保育園から引き取らなければならない時に活用できる、お子さんを見守りながら仕事ができるスペースを本社の4階ラウンジに確保しました。実際に男性社員が会社の近くの保育園に通うお子さんを引き取って、遠方で働く奥さまがお迎えに来られるまで、この制度を利用しながら仕事をしています。

「パートナー制度」は、例えば子育て中の社員が、会社就業中にお子さんに何かがあつて急遽早退や休みになった際に、パートナーがその業務の代わりを務める仕組みです。当人が引け目を感じることもなく、お互いが気持ちよくできるようにパートナーには支給金を支払うといったサポート体制も充実させています。

これらの取り組みが功を奏して、現在の女性社員数は34名までに増えています。女性だけでなく、子育て中の男性社員も利用できる制度になっており、若い世代には大変好評です。

研修やフォローアップも充実

平均年齢は30代前半

「人財研修制度」では、新卒はもちろんで

すが、全社員向けの3年間にわたる「フォローアップ研修」、20代の社員向けの「品格研修」、中堅社員向けの管理職心得を示す「社長塾」、管理職向けの「ハラスメント研修」など、それぞれの立場に応じた研修カリキュラムを用意しました。社員の平均年齢も30代前半と非常に若く、中途採用では異業種からの転職者も増えています。しかも、入社してくる人たちは、ほぼ未経験です。先輩社員の丁寧な指導はもちろんですが、部署ごとに動画マニュアルを作成するなど、習得するまでしっかりとフォローし人財を育成しています。

私たちが目指すのは、「お客さまのニーズに応える為に、日々磨き続けている『オーダーメイド』という付加価値製品を届ける」ことです。それを実現するためにも、会社は「人が全て」であるということを私は常に肝に銘じています。

好きな言葉は「実るほど頭を垂れる稲穂かな」です。「継続と創造」の経営を目指し、謙遜する心を忘れずに、私たちの製品の価値を守り、そして成長していく企業でありたいと思います。

■ インタビューを終えて

熊本銀行 取締役頭取 坂本 俊宏



国内のホイストクレーン製造業の主要7社の一つであり、その中でもお客さまのご要望に応じたオーダーメイドに対応できるという他にはない強みを持っていらっしゃる会社です。

新社長が就任され、とりわけ女性の雇用を積極的に行い、今ではあらゆる部署にて女性社員が活躍されています。また子育て世代のサポートも厚く、若手社員が多く集まっています。今後も「人財」を大切に、ますます発展されることを期待いたします。



トップに聞く!

十八親和銀行

満足度の高い、地域から信頼される
「本物の自動車学校づくり」
を目指して。

株式会社 共立自動車学校

きょうりつ じどうしゃがっこう

代表取締役社長
長島 正太郎氏

ながしま しょうたろう

取引店／十八親和銀行 日野支店

■会社概要

創業:1960年／設立:1967年／所在地:長崎県
佐世保市／資本金:3,500万円／従業員:128名
／事業内容:自動車学校教習事業(通学・合宿)、
不動産賃貸／事業所:共立自動車学校(日野、
大野、江迎)、壱岐市自動車教習所、対馬市厳原
自動車教習所、株式会社サービスセンター共立

会社ホームページは
こちらからどうぞ!





本社前
(左から長島正太郎社長、長島正会長、山川頭取)

「共に立つ」精神で創立 彦岐・対馬へ設立

共立自動車学校は、本社のある佐世保市に指定自動車学校3校と彦岐・対馬の離島にそれぞれ届出自動車学校をもつ自動車学校グループです。道路交通法が施行され指定自動車学校制度が制定された1960年に創業いたしました。私の祖父にあたる創業者は、炭鉱のボタをトラック1台当たり50円で買い、手作業でコースを埋め立て中古のダットサン3台と4人の職員で事業をスタートしたと聞いています。なお社名は4人が「共に立つ」という想いを込めて「共立自動車学校」と名付けました。

長崎県の離島彦岐の出身である創業者は、離島の方々が運転免許取得に苦労していることを感じており、自治体からの要請もあり1965年に「彦岐市自動車教習所」を、翌年の1966年に「対馬市厳原いづはら自動車教習所」を開設しています。今でも島唯一の自動車学校として自動車が不可欠な島民の皆さまに

対して自動車教習だけでなく免許更新時の高齢者講習も行っています。

毎時間の評価制度など

「本物の自動車学校づくり」へ

創業以来、「一人は一社を代表する」という心構えでお客さまに接し、「本物の自動車学校づくり」をテーマに取り組んでまいりました。お客さまに満足していただけることを第一に考え、この学校を選んでよかったと思っただけの「本物のサービス」を提供し、お客さまから最高の評価をいただける自動車学校を作ることに全力を注いでおります。

お客さまには毎時間の教習ごとにアンケートによる評価をしていただいています。修了検定や卒業検定の際にもアンケートをいただきますが、その時では対応が後手になってしまうこともありますので毎時間の教習の度に評価をいただき、すぐに対応することで、お客さまの満足度向上を目指しています。

また、長年社員教育にも力を注いできま



5



3



1



6



4



2



長島正会長



長島正太郎社長

した。「共立の歴史は社員教育の歴史」と先代は表現するように、「共立社員教育研究所」という社員教育部門で長年自社の社員教育はもとより全国各地の自動車学校の社員教育に携わらせていただきました。近年では、接遇の講師に来ていただき数年間現場の接遇の研修を行ったり、コーチングの研修を導入するなど社員の資質の向上に取り組み、サービスの質の向上を目指しています。

積極的な経営統合 自動車学校グループへ

自動車学校業界は、少子高齢化や人口減少の影響を受け、1991年のピークを境に年々卒業生数、学校数も減少しています。これからさらに人口が減少し市場が縮小していく事が明白な中、近隣の同業他社との過度な価格競争がお互いの収益を圧迫し、その結果人材確保難やサービスの質の低下を招いてしまう恐れがありました。そこで今から17年前に近隣の自動車学校と、さらにその7年後に同じ県北エリアの別の近隣校と経営統合し「共立自動車学校・大野校」、「共立自動車学校・江迎校」として2校が加わりました。それにより、スクールバスの効率的な運用や人材の交流など様々なメリットを得ることができました。

佐世保の地の利を活かし 合宿教習生を獲得

また、当社の特徴の1つに合宿免許という



11 9



10



8



1.対談風景/2.教習所コース全景/3.新館前に整然と並ぶ教習車/4.自動車教習シミュレーターを体験/5.新型の普通自動二輪免許教習車「Honda NX400L(教習車仕様)」/6.教習所コース内を見学/7.教習所に隣接する合宿専用宿舎「パークアベニュー共立」/8.ホイールローダーの教習も可能/9.「パークアベニュー共立」内のダイニングキッチン/10.合宿記念写真(ハウステンボスにて)/11.企業メッセージ



最前列左3人目から長島正太郎社長、長島正会長、山川頭取、磯田支店長(十八親和銀行)

商品があります。ご入校されたお客さまに敷地内に併設した合宿生専用宿舎にご宿泊いただきながら短期間で免許取得を目指していただきます。食事も社内のレストランで朝・昼・晩提供しております。長崎県は離島の多い地域柄、創業当時から離島の高校生を一部合宿で受け入れていましたが、20年ほど前から本格的に合宿免許に参入し、関東・関西からも多くのお客さまにご入校いただいております。当社は、日本の西の端にあるという地理的なハンデはありますが、合宿教習で長期間滞在する中で運転免許だけでなく、長崎・佐世保の観光を楽しんでいただけるようなプランを設けております。ハウステンボスや九十九島、また長崎市に足を延ばされて観光を楽しまれているお客さまも多くいらっしゃいます。年間1,500人以上の合宿生が2週間滞在する中で佐世保の良さを知っていただき、また訪れたいと感じていただくことで地域の活性化に繋がって欲しいと思っています。

サービスの品質で差別化を図る

私は、佐世保市で生まれ、大学進学で上京しました。卒業後、名古屋にある自動車学校で普通車と普通二輪の教習指導員の資格を取得し実際の教習現場を学んで、17年前に共立自動車学校に入社しました。一昨年に社長に就任するまで、教習現場や営業、自動車学校の管理者などマネジメント全般に携わりました。教習現場の経験や他社で学んだ知識をもとに、効率化と教習の質の向上を目指し様々な取り組みを行っていく中で、父である先代社長はやりたいことを自由にやらせてくれたと感じています。

自動車学校は、名前に学校が付いているものの、教育業ではなくサービス業であると従業員に伝えています。教育業では、「先生・生徒」という関係になりますが、サービス業では「お客さま・指導員」という関係です。将来、市場が縮小していくことが確実な経営環境の中で、経営の効率化を進めるとともにダンピングで価格競争に陥ることなく圧倒的なサービスの品質で

差別化を図って行きたいと考えています。

安全な交通社会の実現と

地域の活性化

地方では、これから人材獲得が最重要課題になってまいります。従業員の働き方の多様性など柔軟に取り入れながら、若い人たちがやりがいや働きがいを感じることでできる「働きやすい環境づくり」をテーマに職場環境の整備を進めています。教習指導員という仕事は、多くの人とコミュニケーションを取ることができ、目の前で成果が出やすく、お客さまから感謝の言葉もいただける非常にやりがいのある仕事だと思っています。

また自動車学校は地域の交通安全センターとしての社会的使命を担っております。初心運転者の育成はもとより、高齢者講習、企業の安全運転者育成や小学校の交通安全教室など地域に根ざした安全な交通社会の実現を目指してこれからも市民の皆さまから必要とされる自動車学校として、企業価値の向上に努めてまいります。

■ インタビューを終えて

十八親和銀行 取締役頭取 山川 信彦

当社は佐世保エリアに日野、大野、江迎の3校、そして離島である壱岐、対馬を合わせ5つの自動車学校を経営され、県内トップクラスの卒業生輩出数を誇っています。少子化や若者の車離れなど自動車学校業界全体を取り巻く環境は厳しさを増していますが、質の高い指導員と充実したサービスを通じて教習生から非常に高い評価を獲得されており、確固たる地位を築かれています。

これからも「本物の自動車学校づくり」に励まれ、地域社会になくてはならない存在としてますます発展されていくことを期待しております。





 福岡中央銀行

同時5軸複合加工機導入
最新機器と精密な技術で
「出来ないを出来る」に変える。

とうはんさんぎょう
東販産業株式会社

代表取締役社長
たてばやし たかひろ
館林 貴宏氏

取引店／福岡中央銀行 西新支店

■会社概要

創業:1975年／所在地:福岡市博多区／資本金:
1,000万円／従業員:28名(2024年12月現在)
／事業内容:エンジニアリングプラスチックなどの
精密切削加工、樹脂製品の製造販売、金属加工
ほか

会社ホームページは
こちらからどうぞ!





本社工場前(左から館林社長、荒木頭取)

たった2人の機械商社から プラスチック加工製造業に進出

当社は、食品・半導体・自動車・医療関連などのエンジニアリングプラスチック（※切削加工、工業用ゴム製品・伝導機器・油圧・空圧機器加工などを手掛ける会社です。

創業は1975年、福岡市早良区荒江で製造ではなくこれら伝導機器やゴム、プラスチック製品を取り扱う小さな商社として生まれました。福岡中央銀行西新支店とはこの頃からの付き合いになります。ただ当時、社員は創業者であり現在相談役を務める井上政治と、その娘婿である私の2人のみ。業績は順調であったものの、小規模な商社のままで良いのか、先行きに漠然とした不安を感じていました。

転機になったのはプラスチック加工の町工場を譲り受けたことです。高齢のご夫婦2人で営まれていたその工場の設備などを、丸ごと引き受けることになりました。しかし、お話を受けたまでにはいいものの私の前職は工業製品などとは全くの無関係で、創業者の井上も含めものづくりに関しては全くの素人。なんとか技術者を1名確保し、未経験ばかりの従業員の中で私も製造を

手伝うといった状況です。最初は配電盤などの絶縁に使用されるベークライト（エンジニアリングプラスチックの一つ）加工から始めました。※エンジニアリングプラスチック…一般的なプラスチックよりも強度や耐熱性に優れ、さまざまな産業で使用されている。

飛躍のきっかけは 国内トップシェアのおにぎりマシン

もう一つの転機であり、この製造部門が大きくなるきっかけとなったのが、おにぎりマシンの製造において国内で8割強とトップシェアを誇る不二精機株式会社（本社…福岡市博多区）から依頼を受けたことです。このおにぎりマシンの樹脂加工を手掛けたことで製造体制が安定し、また大手企業との取引によって信頼も大きくなりました。

生産が拡大していく中で、2011年には福岡市博多区板付に工場を移転、2018年には大野城市仲畑に第2工場を開設するなど順調に規模拡大を続けました。

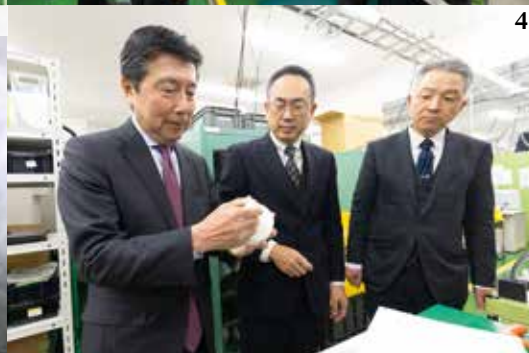
そして2022年5月、現在本社工場がある福岡市博多区榎田に新社屋を開設。本社工場、そして第2工場を新社屋へ移設集約しました。



1



2



3



4



5



6



館林社長

工場機能を一つにまとめたことで生産効率が飛躍的に伸び、またスペースが十分に確保できたことから最新の機械の導入もスムーズに対応できました。

強みは高品質なものづくり 効率性を重視した新工場で 国際基準の品質管理を目指す

新工場では加工能力と効率性の向上を図るため、輸送のレールなどの長尺物や大型部品を加工できる立型マシニングセンタに加え、福岡県内では珍しい同時5軸複合加工機など、最新の設備を次々と導入しました。同時5軸複合加工機では複雑な立体加工、精度が厳しい製品にも対応が可能になりました。しかもそれだけでは

なく、5面同時に加工できることによって人の手による作業が省略され、作業効率もアップしています。また、高性能の3次元CAD/CAM（コンピューター利用設計・製造）ソフトウェアも導入しています。

さらにコンサルタントの意見を取り入れながら、生産の品質を国際標準基準に高めるための取り組みも進めています。私たちが製造するプラスチックなどの素材は、ほんの少しの温度変化によっても形状が変わってしまう性質があります。製品にはミクロン単位の精度が求められ、その温度変化によって少しでも寸法公差が外れることが命取りになってしまうのです。

そこで工場内は常に24度の室温と適正な湿度を保つように設計。品質管理室や商品管理室については清浄度10万クラスの空気清浄機を設置するなど除電、防塵、集塵を徹底しています。

「3つのC」チャレンジ、 チェンジ、コンティニューで 顧客のニーズに応える

TOHAN

東販産業のロゴマークをよく見ていただくと、TOHANの「O」の文字が4つのCでできて



11 9



7



10



8

1.対談風景／2.最新設備を導入した本社工場／3.4.工場見学風景／5.6.高精度な複合加工を得意とする同時5軸複合加工機／7.昨年導入したマシニングセンタ5軸加工機。複雑な立体加工、精度が厳しい製品にも対応可能／8.品質管理室。複雑な形状で測定困難な製品も高精度測定できる／9.本社を見学／10.完成品を社長が解説／11.企業メッセージ



最前列左4人目から館林社長、荒木頭取、藤原支店長(福岡中央銀行)

います。そのうち3つは当社の社訓からきています。

一、「チャレンジ(Challenge)」

何事にも挑戦する！

一、「チェンジ(Change)」

出来ないを出来るに変える！

一、「コンティニュー(Continue)」

継続は自分の力となり、会社の力になる！

最後の4つ目のCは、会社の「カンパニー(Company)」を意味しています。

私たちのものづくりの姿勢は、その中の「チェンジ」出来ないを出来るに変える！」に示されています。依頼を受けたものは、決して断ることはありません。難しいことであっても「出来ない」とは言わない、「出来る」ための努力を惜しまないことが、当社の大きな強みになっています。

この10ミクロンのズレも許さない精度の高い技術を実現するために、社内においては、何事にも挑戦するという「チャレンジ」精神を持つことを重視しています。従業員同士がどうすればお客さまのご要望にお応えできるのか、お互いに切磋琢磨しながら取り組んでいます。

また、どのような依頼も引き受けるにあたっては、約40もの協力会社の存在も欠かせません。

この協力会社は商社時代のネットワークによるもので、それぞれに当社の工場では対応できない得意な分野を受け持っていたれています。国際的な品質管理基準を満たすには、これらの協力会社の品質向上も同時に行う必要があります。当社が指導的な立場でもあることから、さらなるリーダーシップを取り、お互いに協力しながらこの先も勝ち残っていきたいと思っています。

食品、半導体、自動車、

そして4つ目の柱に

医療関連の確立を目指す

現在は食品、半導体、そして自動車関連の製造が約80%を占めています。その中で、次に狙うのが医療関連です。現在は2023年10月期決算で46%程度ですが、これを10%までにすることを目標としています。現在試作段階のものもあり、この数値は達成できるのではないかと捉えています。

さらに九州は台湾の半導体メーカーTSMCが熊本に進出したことで、半導体関連の需要が伸びている印象があります。しかし、実は全国の半導体製造業が九州に次々と進出してきて

おり、この先は競争がさらに厳しくなると予想しています。また、製造業は分野によって繁忙期とそうでない時期があり、さまざまな分野を手がけることでバランスよく製造ができると考えています。

医療関連は、これからも確実に伸びていく分野だと捉えています。食品、半導体、自動車に加えてこの医療を4つ目の柱にすることで、当社の経営基盤が盤石になるのではと見込んでいます。

創業以来、経営面において大きな浮き沈みがほとんどなく、現在も幸いなことに残業しないと追いつけないほどの受注をいただいています。社員も60代以上のベテランもいれば20〜30代もあり、技術の継承などもスムーズにできています。工場の集約、最新機器の導入によって作業効率が良くなったことは、社員のモチベーションアップにもつながっていると感じています。

さらに展示会などを通じて、さらなる顧客の拡大や協力会社の開拓も進めていきたいと考えています。今後も「出来ないを出来るに変える！」をモットーに、お客さまの依頼を断ることなく、満足いただける製品づくりを続けてまいります。

■ インタビューを終えて

福岡中央銀行 取締役頭取 荒木 英二

食品、半導体、自動車関連機器のエンジニアプラスチック切削加工において、確かな技術を持つ、信頼と実績のある企業です。現在、本社は博多区にあります。創業当時のまま西新支店が担当し、店舗にもよく足を運んでいただいております。

若い従業員が多く、活力に満ちた新工場では、品質管理が一層徹底されています。また、医療業界への進出も見込まれており、さらなる事業拡充ができると確信しております。末永いお付き合いとますますのご発展を心よりお祈りいたします。



地域とつながる FFG連携プロジェクト

私たちFFGは、「地域と共に未来を創っていくこと」をスローガンに、観光・農業・雇用・産業・健康・教育など様々な分野での地方創生に取り組んでいます。今回は、長崎県および一般社団法人 離島振興地方創生協会と連携した「食」を通じた地方創生の取り組みについてご紹介いたします。

長崎県



「ながさき食のメッセ」開催！ ～しまの産品振興プロジェクト成果報告会及び展示商談会～

長崎県は、豊かな自然と豊富な農水畜産物に恵まれています。しかし、首都圏や近畿圏といった国内の消費地からの距離がもたらす物流の課題や、人口減少や担い手不足といった生産基盤等の課題を抱えています。日本の中でも数多くの有人離島がある長崎県において、課題が特に顕著な離島に重点をおいた食品産業を中心とした振興を「離島産品振興プロジェクト」と題し、一般社団法人離島振興地方創生協会（以下、離創協）が2020年から開始しました。離創協は、日本を代表する食品業界の製配販企業OBや関係省庁官僚OBなど、多様な業界の有識者や会員企業から成り立ち、「バリューチェーンの構築」「生産基盤の整備」「生活基盤の整備」の3つを重点政策として活動しています。十八親和銀行地域振興部は、当初より離創協や長崎県をはじめとした関係自治体と連携し、行員の派遣を通じて長崎県内の食品事業者との関係構築や展示商談会・フェアの企画立案に努めてきました。

プロジェクトは対馬市、壱岐市、五島市、新上五島町などから始まり、2023年には西海市、2024年には島原市へと拡大し、食品産業振興に向けた活動を実施してきました。



十八親和銀行 山川頭取



長崎県 大石知事

具体的な取組みとしては、首都圏、近畿圏や福岡で開催された展示商談会への参加や、「長崎・離島フェア」などを通じた地域産品のPR活動があります。また、地域産品を活用した新商品の開発や生産基盤の整備など、多様な施策が展開されてきました。この2020年から始まった5年にわたる活動の成果発表の場として、2025年1月16日に「ながさき食のメッセ」と題し、離島産品振興プロジェクトの成果報告会と長崎県主催による展示商談会が長崎市の出島メッセにて開催されました。成果報告会においては、来場企業や出展企業、行政関係者に向けて、長崎県と離創協が取り組んできた離島産品の振興について、長崎県の大石知事による挨拶、十八親和銀行の山川頭取からの応援メッセージ、



商談会の様子



離創協の発表の様子

離創協の千野理事長より販路拡大支援等の地方創生活動の歩みについて発表がありました。

展示商談会には112社が出展し、全国各地から92社・200名以上の経営陣やバイヤーが来場しました。出展企業からは新たな取引成立見込みについても期待され、「東京や大阪の展示商談会ではないと交流できないバイヤーとメールや電話だけでなく直接交流する場が持てて良かった」といった声も寄せられました。

十八親和銀行地域振興部は、この成果報告会及び展示商談会においても地元銀行として連携し、出展企業への周知・募集や会場準備など事前準備にも協力、当日も運営スタッフとして参加しました。この連携を通じて、地域流通中心だった現状から新たな販路へのチャレンジ意識が高まり、事業拡大への道筋がつけられました。今後も食産業振興を通じて長崎県の「食」が成長しPRされることを支援し、その持続可能な発展に寄与してまいります。



十八親和銀行 地域振興部 松山
【お問い合わせ】095-828-8150

FFGは地域が抱える課題解決や 地域経済の活性化に取り組んでいます

FFG地方創生の
取組事例はこちら

ストーリーでつながる、銀行系地方創生メディア

 bank baton



地方創生に関するお悩みをご相談ください

- 観光振興
- まちづくり
- 産業振興
- エネルギー
- 教育文化芸術
- ヘルスケア

ふくおかフィナンシャルグループ
営業統括部 地方創生推進グループ
【お問い合わせ】TEL (092) 723-2254

地域と共生するFFG

株式会社 御花^{お はな}

取引店：福岡銀行 柳川支店

立花家18代・代表取締役社長

たちばな ちづか
立花 千月香 氏

立花家の末裔が守り続けてきた

「日本で唯一泊まれる国指定名勝」が

2025年1月リニューアルオープン

7,000坪の敷地全体が国指定名勝となっている「柳川藩主立花邸 御花」。約300年の歴史を持つ文化財でありながら、1950年からは料亭旅館として親しまれてきました。そして75周年を迎える2025年1月、「100年先も変わらない質朴な空間」をコンセプトに宿泊棟が新しく生まれ変わりました。

立花家の末裔が営む「日本で唯一泊まれる国指定名勝」を守り、100年後も残していきたいと語る立花家18代の立花千月香氏。今回のリニューアルへの想いや、長年守り続けてきた歴史や文化という強みを活かした新しい空間やサービスについてお話を伺いました。

柳川を愛し、共に歩んできた

立花家の歴史

立花家の初代は、南北朝時代にこのあたりを治めていた大友家の家臣、戸次（立花）道雪です。この道雪が筑前国（現在の福岡）の立花城の城主になったことで「立花」の姓が始まります。その娘・闇千代と結婚して道雪の婿養子となった戦国武将で知られる立花宗茂が、豊臣秀吉に大名として取り立てられ、1587年に柳川城に入ったことから柳川立花家の歴史が始まります。

柳川藩主として信頼が厚かった宗茂ですが、関ヶ原の戦いでは西軍側についたため領地を追われました。しかし、その武功や人柄が徳川幕府に認められ、柳川藩主として復活。関ヶ原の戦い以降、領地を追われた後に旧領を回復できた大名は宗茂ただ一人です。

以来、立花家は柳川を愛し、柳川と共に生きてきました。江戸時代中期の5代・立花貞俣は、家族が住まう別邸として現在の御花の場所に屋敷を建てました。この地が季節の花々で彩られたことから「御花畠」の愛称で親しまれ、後に「御花」となったのです。

明治時代になると立花家は伯爵位となり、1910年には14代当主立花寛治が現在の「御花」

の基礎となる邸宅を整備しました。同年に生まれた16代・立花文子は、大正、昭和と激動の時代を生きた女性です。戦後は旧華族が困窮する中、夫である和雄とともに料亭旅館を営むことを決意。元々広間を地元の人々の宴会場として提供していたことがきっかけで、これまで想像もしなかった経営者としての道を歩み始めることになったのです。

「絶対にへこたれない」

曾祖父と祖母の想いを継ぐために

文子と和雄は私の祖父母に当たります。祖母は伯爵家のお嬢様として何不自由ない暮らしから一変したもの、とても明るく前向きな人柄でした。幸いにも屋敷にはご奉公の女性が多くおり、その方たちが仲居として働き、有田焼の器なども揃っていたことが功を奏したようです。

その祖母からは「これからどんな時代になろうとも、絶対にへこたれるな」と教えられました。この言葉は文子の父・立花鑑徳が残した教えで、その意志は世代を超えて私へと受け継がれています。その後、柳川の観光の定番である「柳川川下り」も始まります。当時よく地元の人たちと舟で宴会をしていたことから、これが観光化できるのではないかと始まったのです。さらに料理も、家庭料理と

考えられていた有明海のものを使った郷土料理を提供。祖父は初代の柳川の観光協会会長も務め、常に「柳川のために」との想いで次々とアイデアを出しており、今は有名な柳川の白秋祭もこの頃に生まれました。

今では柳川は国内外で知られる観光地ですが、その魅力は決して作られたものではなく、普段の暮らしや風景を感じられるところだと思っています。川下りをされると気づかれると思いますが、家にはお堀との間をへだてる塀がありません。それだけに人々のありのままの暮らしを感じることができ、舟に向かって子どもたちが「こんにちわ」と挨拶をする、そんな日常の風景がずっと変わらずに感じられることが、柳川の魅力なのだと感じています。



御花の歴史と魅力を語る立花社長

「国指定名勝に泊まる」
唯一無二の強みを活かして

今回リニューアルをした宿泊棟「松濤館」^{しょうとうかん}は、40年前に建てられたものです。江戸時代中期から約300年を経ても変わらない「松濤園」の美しい

庭園を眺めるお部屋ではあったものの、客室数はわずかに20室。「御花つて宿泊できるのですか？」と聞かれるほど、あまり知られた存在ではありませんでした。私たちも結婚式や宴会などが中心で、宿泊の売り上げは1割程度に過ぎませんでした。その経営状況がコロナ禍で一変します。全ての

観光が自粛ムードの中で、なぜか宿泊だけが動いていたのです。いらっしゃるのは福岡や北九州のお客さまで、せめて非日常を味わいたいと宿泊されていました。

これを機に、私たちも宿泊の見直しを行いました。実は柳川には宿泊施設が限られておりビジネス



1.守りたい景色のシンボルとなっている100畳の大広間／2.3.特別室 黒松／4.柳川の郷土料理を提供



5.客室から眺めた風景の一例(文化財ビュー)／6.客室前の廊下には立花家と所縁のある展示品が飾られている／7.深川製磁のティーセット

利用される方も多かったのですが、駅前にビジネスホテルができ、私たちはより高付加価値のある宿泊施設に舵を切ることにしました。

「御花」の持つポテンシャルについて考えた時に、出てきた答えが「文化財に泊まる」というキーワードでした。庭園を含め7,000坪の敷地全体が国指定名勝の文化財となっています。さらには柳川を治めてきた立花家の末裔が営んでいる料亭旅館であることの価値を、いまさらながら実感したのです。そして何よりも私たちに「100年後に残す文化財を守る」役割があることを自覚し、「変わらないために変わること」の大切さに気づいたのでした。

料亭旅館を創業してから75周年を迎えます。そこで「原点回帰」をテーマに16代・立花文子を書いた「御花」の文字を使用し、立花家が受け継いできた歴史・ストーリーを感じていただけるよう全客室、ロビー・ラウンジなどをリニューアルしました。

歴史を感じるおもてなしの空間へ リニューアルオープン

2024年夏からリニューアルを進め、2025年1月11日に無事リニューアルオープンを迎えることができました。客室数は20室と変わりません。しかし、一つひとつのお部屋が広くなり、ロビー・ラウンジともにおもてなしの空間として大きく変わりました。コンセプトは「100年先も変わらない質朴な空間」。100年先も変わらない上質かつ普遍的な温かみ、経年変化を楽しめる自然素材や元々御花の屋敷で使われていた布石を石畳やオブジェとして使っています。

また、至るところに地域や歴史のつながりの深いものを採用しています。照明には八女市・伊藤権次郎商店の提灯、透白磁に描かれた「フカガワブルー」と呼ばれる品格ある青が印象的な深川製磁のティーセット、ロビーやラウンジの家具には佐賀市諸富町で60年以上の歴史を持つレグナテック社の「ARIAKE^{アリアケ}」シリーズなどを採用。客室のアメニティー一つひとつにも、地元と縁のあるものを選んでいきます。

客室は江戸時代の庭園の名残である東庭園を眺めるガーデンビューと、松濤園や西洋館などの文化財エリアを眺める文化財ビューのお部屋を用意しました。文化財側はこれまで眺めることができなかったのですが、今回こちら側を眺める客室ができたことで迫力ある歴史ある建物、そして遠くは雲仙岳をも眺める絶景をお楽しみいただけるのではないかと思います。

歴史や柳川を楽しむ 新サービスも登場

立花家や柳川の歴史や文化を感じていただくサービスも始めました。ご宿泊のお客さまには毎日16時半から館内ガイドツアーを実施しています。立花家の歴史を含め「御花」の魅力を存分に見て、

聞いて、感じていただける内容となっております。

更に「お舟で朝食」もスタートしました。川下りの開始が朝9時ですので、その前の静かなお堀で優雅な気分で朝食を楽しんでいただけたらと思います。ラウンジにはブックコーナーも常設。「四季を紡ぐ」「伝統文化を紡ぐ」「歴史を紡ぐ」などをテーマに、ラウンジや客室でゆつくりと読書をしていただければと思っています。

「御花」は日本で唯一泊まれる国指定名勝です。その文化財を守り、お客さまに楽しんでいただくことはサステナブルな社会への貢献にもつながっていくはずです。文化財の魅力を見出し、訪れる方々に感動を届け、「心のよりどころ」としてあり続けること、それが私たちの使命であると感じています。



ラウンジのブックコーナー

株式会社 御花

- 所在地：福岡県柳川市新外町
- 電話番号：0120-336-092(代表)
- 設立：1950年
- 事業内容：宿泊業、ブライダル事業、飲食業

客室情報は
こちら



ホームページは
こちら



松濤館

音楽とアートで障がい者の未来を照らす

JOY倶楽部

誰もが

ゆたかな

世の中に





J O Y 倶楽部には音楽活動をする「ミュージックアンサンブル」と、アート制作をする「アトリエブラヴォ」の2つのグループがあり、それぞれの想いを込めて活動しています。

2022年からは生活介護事業も立ち上げ、現在は多機能型事業所として運営しています。

今回、アトリエブラヴォの樋渡幸大氏ひわたしこうだいが飛鳥IIIアート公募展で福岡銀行賞を受賞したことをきっかけにF F G 五島社長が表敬訪問を行い、ミュージックアンサンブルのメンバーとセッションしました。

障がい者に秘められた

「可能性」を伸ばすために 設立されたJOY倶楽部

社会福祉法人JOY明日への息吹が運営する障害福祉サービス所「JOY倶楽部」。1993年に福岡市博多区で結成し、1997年に知的障害者の認可外作業所として運営。2001年に社会福祉法人の認可を受け、2002年に「知的障害者通所授産施設 JOY倶楽部プラザ」として現在の博多区東月隈に施設が建築されました。2011年には法人名を「社会福祉法人JOY明日への息吹」に変更し、障害福祉サービス就労継続支援B型事業所として運営を行っています。

JOY倶楽部の創設者である緒方克也^{おがた かつや}理事長は、1979年に福岡市博多区で障がい者専門の歯科医院を開設しました。1980年代にオランダの学会で出会った知的障がい者の音楽バンド「JOSTI BAND」に感銘を受け、日本でも

障がいを持つ人が市民権を持って社会で活躍できる場を提供したいと考えるようになりました。その後、歯の治療に来院した患者や保護者、繋がりのある音楽家、画家、教育者、福祉家、ボランティアなどさまざまな人に声をかけミュージックアンサンブルは結成されました。

1993年の結成当初は、演奏経験がない人がほとんどでトレーナーが自宅まで訪問して演奏の技術を教えるところから始まり、当時は支援学校や就労先で生活する傍ら、月に2回練習場を借りて合同の練習を行っていました。認可外作業所の運営が開始した1997年からは倉庫の一角を借りて11名のメンバーが通うJOY倶楽部プラザが誕生。音楽を仕事にしたいというメンバーの意識の高まりに加えてマスコミに特集され、社会に周知される機会も徐々に増えて行くことで演奏活動の場が広がり、2000年に目標だったデビューアルバムをリリース、更にデビューコンサートを果たします。

社会福祉法人の認可が下りて就労継続支援B型事業所となつてからも音楽活動を行う「JOY倶楽部ミュージックアンサンブル」とアート活動を行う「アトリエブラヴォ」は活躍の場を広げています。

一人ひとりが得意なことを 伸ばしながら

ゆたかな生活を送るために

JOY倶楽部が運営する就労継続支援B型事業所というのは、通常の事業所に雇用されることが困難で、雇用契約に基づく就労が困難である者に対して就労の機会を提供するとともに、生産活動その他の活動の機会の提供を通じ、その知識及び能力の向上のために必要な訓練を行う事業所のことをいいます。利用者は、音楽やアートを提供する活動を通じて工賃を受け取ることが出来ます。

JOY倶楽部では「障がい者だから質が悪くても許される」という考



岡部施設長によるJOY倶楽部の説明の様子



株式会社LANDICホールディングスの中山社長も同席



クルーズ船飛鳥Ⅲアート公募展受賞者の表彰パーティ
左から橋爪常務(福岡銀行)、樋渡氏

えは許されないという考えのもと、その人らしさに着目しながらできることを見つけ、能力を伸ばしていけるように支援を行っています。音楽やアート活動を通じて「自己実現・自尊心と障がい特性・健康で豊かな生活・自立と社会参加」を獲得することを目的とし、JOY倶楽部が利用者には何かをするのではなく、利用者が主体となつてどのようなサービスを受けるのかを決めることによって、生きがいにつながるということを大事にしています。



樋渡氏

クルーズ船飛鳥Ⅲ アート公募展で 福岡銀行賞を受賞

福岡銀行は、郵船クルーズ株式会社主催する、2025年夏に就航予定の「飛鳥Ⅲ」船内に展示する作品を公募した「クルーズ船飛鳥Ⅲアート公募展」にスポンサーとして協賛しました。協賛企業賞である「福岡銀行賞」をアトリエブラヴォの樋渡幸大氏が受賞し、2024年12月に横浜港で停泊していた「飛鳥

Ⅲ」船内で授賞式が行われました。

受賞した樋渡氏は、幼い頃から大相撲の熱狂的なファンで、九州場所を毎年楽しみにしているとのこと。

鉛筆で細かい線画を描き、黒ペンでその鉛筆線を辿り、アクリル絵の具で色付けをしていく繊細な手法で、躍動感のある作品を仕上げます。生き甲斐は「毎日仕事をする」ことで、日々新しい作品を描かれています。

クルーズ船飛鳥Ⅲ
アート公募展
受賞、入選一覧は
こちら



JOY倶楽部へ表敬訪問

2025年1月28日(火)、五島社長がJOY倶楽部へ表敬訪問を行いました。当日は、クルーズ船飛鳥Ⅲアート公募展で福岡銀行賞を受賞した樋渡氏に激励の言葉を送り、アトリエブラヴォを見学。

アトリエブラヴォは、一人ひとりの夢が叶うよう一歩ずつ歩む作家集団です。一人ひとりが日々感性を研ぎな



アトリエブラヴォを見学





竹ストローデザイン



竹ストローデザインの原画「雪山」



植波氏の作画風景を見学

から、アーティストとして自立することとをめざし、同時にアトリエブラヴォという、作家集団としての力も大切にしながら仕事に取り組んでいます。

アトリエブラヴォの活動のひとつとなっている福岡市街でのウォールアートでは、小学校の学童保育所や商店街のシャッターなどに描かれており、地域と一体となってアトリエブラヴォのアート作品は活躍しています。ほかにもグッズ制作やロゴマークの制作などにも取り組まれており、福岡銀行のノベルティの竹ストローでもアトリエブラヴォのデザインが採用されました。

JOY倶楽部

ミュージックアンサンブル

1993年に福岡市で誕生したJOY倶楽部ミュージックアンサンブルは「およびがかかれば どこへでも！」を合言葉に県内外問わず、さまざまな場所で公演を行っています。アコースティックな楽器とシンセサイ

ザーを用いて、観客と一緒に歌や踊りを楽しめるオリジナル曲をはじめ、クラシックからポップス、映画音楽などを演奏しています。

活動の一環として福岡銀行本店広場で開催される「ビルの谷間のコンサート」でも毎年演奏を行っており、今年は4月22日(火)に開催します。



昨年のビルの谷間のコンサートでの演奏風景

ミュージックアンサンブル

FFG五島社長とのセッション

五島社長の表敬訪問では、ミュージックアンサンブルの演奏が披露されました。その後、福岡銀行軽音楽部でもある五島社長にセッション参加へのお誘いがかかり、ミュージック



ミュージックアンサンブルとセッションする五島社長



ミュージックアンサンブルとセッションする五島社長

アンサンブルの皆さんとともに軽快
なりズムでドラムを叩きました。



セッション後に笑顔で五島社長を囲む利用者の皆さま

障がい者の将来を考えた 支援を継続していく

昔の日本の障がい者福祉は現代の
ように障がい者に特化したサービ
スが充実しておらず、保護者が我が子
を守っていかねばなりませんで
した。それゆえに自分の感情を出す
ことが難しかったり、自分で決める
機会が無かったり、親が敷いてくれ
たルールを進むしかできないという
ことが一般的でした。

J O Y 倶楽部では、自分のやり
たいことに取り組み、自分で感情を
出すということを尊重しています。
そのうえで、基本的な生活の確立を
図り、集団での行動や仕事の問題な
く遂行できるように支援を行ってい
ます。できないことに対しても目的
を持ち、経験を積んでもらうことが
利用者の成長につながります。
J O Y 倶楽部は、利用者の自立と
成長のために、一人ひとりの命を大
切にした社会参加で、障がいを持つ
人も持たない人も共に生きる社会
の実現を目標に活動を続けられて
います。



ミュージックアンサンブルの演奏

ミュージックアンサンブルが ビルの谷間のコンサートに出演します！

社会福祉法人 JOY明日への息吹
障害福祉サービス事業所

JOY倶楽部

所在地：福岡市博多区東月隈3丁目27-1



施設長
おかべ しゅうすけ
岡部 秀輔 氏

生まれも育ちも福岡県篠栗町、趣味はバンドのギター演奏という岡部施設長は、そば打ちなど多様な特技を持ち、農業分野ではコメ作りに取り組まれています。2003年に生活支援員としてJOY倶楽部に入職後、利用者の方の生活をサポートしながら、ミュージックアンサンブルのメンバーと一緒にステージに上がり演奏のサポートをするなど、利用者の方に寄り添いながら支援をされてきました。2023年から施設長として施設全体の管理を務めています。

イベント名	第313回「ふくぎん“ビルの谷間のコンサート”」
日時	2025年4月22日(火) 12:15～13:00
場所	ふくぎん本店広場 (福岡市中央区天神二丁目13番1号)
出演	JOY倶楽部ミュージックアンサンブル
入場料	無料(入場整理券なども不要)
主催	一般財団法人 ふくおかフィナンシャルグループ文化芸術財団

※天候やその他の事情により、変更になる場合がございます。



海外駐在員事務所が伝える

グローバルの今

FFGでは、独自のネットワークを活かしてお客さまの海外ビジネスを総合サポートしています。

今回、香港駐在員事務所の稲富所長に現地の情報やビジネスについて伺いました。

Question 1

現地の状況について
教えてください

A 香港は1997年に中国に返還され、現在は外交と軍事を除く自治権を有する特別行政区として一国二制度が適用されていますが、2020年に香港で国家安全維持法が施行されて以降、一国二制度は形骸化しており人材流出などの影響が出ているとの報道も見受けられます。

一方で、香港はコモン・ロー（英米法）に基づく法制度、シンプルかつ低位な税制度や、高い経済自由度を維持しており、カナダのシンクタンクであるフレイザー研究所が発表する世界の経済自由度ランキング（2024年）において、香港が世界165カ国・地域中トップとなっています。

また、中国返還後の香港においては、2017年に中国中央政府の主導で香港・マカオと広東省の珠江デルタ9市を一つの経済圏として捉え地域発展を目指す、グレートベイエリア構想（※1）が

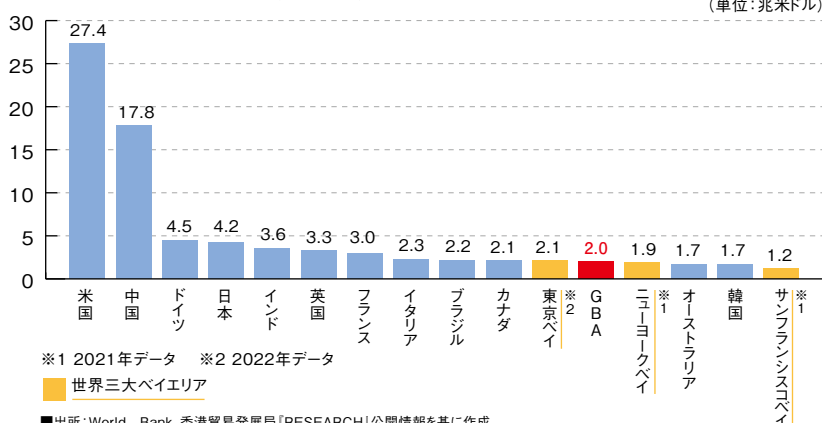
スタートしています。足元のグレートベイエリア（以下：GBA）のGDP規模は、先進国や世界三大ベイエリアと比較しても遜色ない水準となっており（※2）、GBA構想の主要都市である香港は、従来の強みである国際金融・物流のハブ機能の強化に加え、イノベー

ション・科学技術の発展などを担っています。そのような中、香港政府は2001年にイノベーション・科学技術発展のため香港サイエンスパーク（以下HKSTP）（※3）を設立しました。HKSTPは、延べ床面積37万㎡（サッカー場約70個分）の開発オフィスやラボ

※1 GBAを構成する都市の地図



※2 世界の国・地域別GDP (2023年)





を備え、26の国と地域の2,200社を超える企業が入居しており、これまで13社のユニコーン企業を輩出しています。また、HKSTPは海外企業に対しても、助成金の支給、専担メンターの配置、投資家や現地企業とのマッチング機会の提供など手厚いサポートを行っています。

Question 2

現地企業の声を聞かせて下さい

A HKSTPに入居する日系大手メーカーの現地法人代表者にお話を伺いました。

「現地企業の声」

弊社は、中国企業との連携や中国市場での販路拡大を主な目的としてHKSTPに入居しました。HKSTPには、スタートアップ企業だけでなく中国の大手企業も入居しており、加えて中国のシリコンバレーと呼ばれる深圳市にHKSTP深圳分室があり、施設の相互利用も可能であることから、研究員の交流などを通じて様々な中国企業と接点を持ち連携を深めることが可能です。また、HKSTPでは、私共のような海外企業も、現地企業とのマッチング機会の提供など手厚いサポートを受けることができるため、販路拡大などの成果につながっています。

Question 3

海外ビジネスを目指すお客さまへメッセージをお願いします

A 香港の人口は約750万人と中国の中では決して大きなマーケットではなく、足元では消費の低迷や経済のデカップリングによる影響には注視が必要です。しかしながら、香港は世界三大ベイエリアと遜色ない経済規模があるGBAの主要都市で、人口14億人を抱える巨大な中国マーケットのゲートウェイとして優位性があり、現在でも経済自由度が高い地域であると評価されています。香港事務所では、現地市場調査や現地企業とのマッチングのサポートのほか、今回ご紹介したHKSTPの現地視察のアテンションなども対応させていただきますので、香港でのビジネスにご興味がありましたらお取引店にご相談ください。



現地のおすすめや過ごし方を
ご紹介ください

※4 ピンクイルカ写真



提供: HongKong Dolphinwatch Ltd

香港で人気の観光アクティビティにピンクイルカウォッチングがあります(※4)。ピンクイルカは成体になると体がピンク色になるシナウスイロイルカの愛称で、ピンクイルカを見ると幸せになれるという言い伝えがあり、ピンクイルカの写真をスマートフォン待ち受けにすると願いが叶うと言われています。香港中心部から日本語ガイド付きのオプションツアーも用意されていますので、香港観光の際の選択肢の一つとしてご検討されてはいかがでしょうか。

ふくおかフィナンシャルグループのお取引先企業の中から、サステナブルファイナンスやSDGsコンサルティングをご利用いただいた企業のサステナビリティの取り組みをご紹介します。

〈今回ご紹介する企業〉

株式会社 八芳園 はっほうえん

エリアプロデュース警固 けご

代表取締役

井上 義則氏 いのうえ よしのり

取引店／福岡銀行 天神町支店

ブライダルを中心に

様々なイベントプロデュースを行う

総合プロデュース企業

株式会社八芳園は東京でブライダルを中心に、企業イベントやMICEなどのプロデュースを行っている総合プロデュース企業です。400年の歴史がある日本庭園を持つ「八芳園」を主要施設として、様々なイベントのプロデュースを行っています。

近年では地域活性・地域創生に向けた事業活動にも取り組んでいます。自治体や企業、教育機関との連携協定の締結も地域活性に向けた取り組みの一環で、現在では日本全国で15の連携

協定を締結し地域プロデュースを行っています。

2021年に開催された東京2020大会では大会に合わせて設置された「2020ホストタウン・ハウス」においてホスト・タウンの企画、イベントプロデュース、メニュー開発などを株式会社八芳園が担当しました。

「THE KEGO CLUB
by HAPPO-EN」をオープン

2024年3月、福岡市・天神の警固神社社務所ビルに「THE KEGO CLUB by HAPPO-EN」をオープンしました。東京の八芳園と同様、ブライダルを中心に企業イベントやMICEなどのプロデュースを行っています。



八芳園・壺中庵全景

ただし単にイベントのプロデュースを行う拠点ではなく、福岡というエリア全体をプロデュースしていきたい。社名にはそんな願いを込め「エリアプロデュース」という表現を用いています。



警固神社社務所ビル

実は福岡への進出は念願かなってというわけではなく、福岡県大川市との連携協定などのご縁からお声をいただき出店に至りました。出店の際に心がけたことは、当社を一つの支店としてではなく、地域に根差した福岡の企業として運営する、ということです。そのため社員は東京から呼び寄せず全員を地元福岡から採用しています。

福岡に拠点を設けて感じることは、九州は食材が豊富で生産者や食材の文化をダイレクトに体感できることです。福岡では美味しく新鮮な果物が低価格で調達できる。また生産者と親交を深めていろんな話をするができる。そんな福岡に大変魅力を感じています。

いつまでも在り続けること おもてなしの精神

株式会社八芳園は1943年に飲食店として個人創業しました。創業当時は戦時中であり、国民すべてが国に奉仕するべき、という考え方が色濃く残っていた時代です。創業者の長谷敏司^{はせとしつか}は「人間は食べなければ生きていけない。どうせ食べるなら日本の伝統の味を多くの人に味わってもらいたい。」そのような想いで飲食店を開店しました。その後、ご縁があり今の八芳園で飲食店を経営するようになり、さらに事業の中心がブライダルへ移り変わっていきました。お客さまに料理を愉しんでいただき、八芳園がお客さまのこのころのふるさととしていつまでも在り続けたい。そのおもてなしの精神は今でも八芳園グループのものさし・指標となっています。「今の事業や会社の在り方は創業者の想いに沿っているか？変わっていないか？」と常に自身へ問いかけしています。

THE KEGO CLUB by HAPPY ENにおいても、その理念は当然継承しています。理念が事業となり、お客さまへのサービスへつながる好循環を目指していますが、社員へ対して理念をどう浸透させていくかが重要だと思っています。

地域が抱える問題を 一緒に解決していく

福岡にいざ出店してみると、地域ごとに様々な問題を抱えているのがわかります。いろんな生産者や自治体などが抱える地域課題は東京からみるとニュースの一つにすぎませんが、地元では身近な問題となります。生産者や自治体などが抱える地域課題と一緒に考え、一緒に解決していく、ネガティブな状況をポジティブな事業に変えていく考えや取り組みが大事なのだと思います。

THE KEGO CLUB by HAPPY ENはオープン後ブライダルや企業イベントなど好評を得ており、滑り出しは順調です。料理がおいしいとか、会場の空間がきれいなどの声もいた



井上義則代表取締役



THE KEGO CLUB by HAPPO-EN 2024年2月レセプション

だいているほか、大変嬉しいことに従業員の接客・応対が素晴らしいとお声もいただいています。

近年のインバウンド需要から、ホテル業界ではバンケットを縮小し、宿泊に特化する傾向があります。対して当社はバンケットに特化し、ブライダルをはじめとした企業イベントやMICEなどのイベントプロデュースをさらに強化していきたいと思っています。

食の安全と文化を守りながら 環境へも配慮

八芳園グループでは創業から食の安全や文化を守ることにこだわって事業を続けてまいりました。ブライダルや企業イベント、自治体や様々な機関との連携なども「食」という根本がしっかりとっているからこそ成功できたことだと思います。

また、環境負荷を軽減することも大変重要だと思っています。株式会社八芳園では、今回本館の大規模な改修工事を実施することを決定しました。日本国内の人口減や人々の生活様式の変化により、人々の結婚観も時代とともに変化しています。現在の本館は築後数十年が経過しているため、現在の世の中の在り方・事業活動に最適な設備にしたいのと、ZEB認証を取得し環境負荷を極力低減した建物へ変貌させたいと思っています。

サステナブルファイナンス

現在、世の中ではテレビや新聞紙面で毎日のようにSDGs、サステナビリティという言葉が飛び

交っています。株式会社八芳園で自社の取り組みを確認した際、「サステナビリティって、今まで八芳園がやってきたことそのままだね」こんな言葉が社員から出ました。世間でサステナビリティという言葉が広まる前から八芳園が行ってきたこと、それこそ、創業時の経営理念そのものがサステナビリティなんだ、と思っています。ただ、自社で認識しているだけでは不十分、との思いがありました。

今回、THE KEGO CLUB by HAPPO-ENの開店資金として福岡銀行にてポジティブ・インパクト・ファイナンスを利用しました。当初はこのような融資制度を知らず、銀行から案内いただいた際にはSDGsのような大儀的なことを融資に結び付けてできるのか、という疑問もありました。しかし評価書のストーリーが非常に面白い取り組みだな、と感じ今回利用することになりました。その結果今回ポジティブ・インパクト・ファイナンスを利用したことで周りから「ポジティブ・インパクト・ファイナンスって何？」と興味をもっていたことや、改めて自社の取り組みや考え方を整理できたことが有意義だったと思っています。

今後とも、当社は福岡の地域社会の発展のため、事業活動やサステナビリティ活動にしっかりと取り組んでいきたいと思っています。



〈FFG〉ポジティブ・インパクト・ファイナンス実行の記念楯を贈呈(左から井上代表取締役、福岡銀行天神町支店 大石前支店長)

八芳園グループ

■株式会社八芳園エリアプロデュース警固

ブライダル事業、イベントプロデュース事業

〒810-0001 福岡市中央区天神二丁目2番20号 092-707-2053



■株式会社八芳園

ブライダル事業、料亭・レストラン事業、イベントプロデュース事業、空間デザイン事業、フード事業、デジタルサービス事業

〒108-0071 東京都港区白金台一丁目1番1号 0570-064-128

■株式会社八芳園交流コンテンツプロデュース

自治体PR事業、ホスピタリティプログラム開発事業、食の拠点開発事業

〒108-0071 東京都港区白金台一丁目1番6号 03-6456-2030

■株式会社八芳園ヒューマンリソースマネジメント

人材派遣、人材紹介、レストランビジネスのコンサルティング、開業支援、プロデュース事業のコンサルティング

〒108-0071 東京都港区白金台一丁目1番6号 050-1808-4146



FFG公式YouTubeチャンネル
では当社へインタビューして
います。

こちらをご覧ください。



FFGでは企業のESG／SDGsの取り組みを支援しています

FFG公式
チャンネルはこちら



ふくおかフィナンシャルグループ
営業統括部 サステナビリティ推進企画グループ
■お問い合わせ：TEL.092-723-2512

サステナビリティに
関することは
何でもご相談ください

ふくおかフィナンシャルグループのお取引先企業の中から、サステナブルファイナンスやSDGsコンサルティングをご利用いただいた企業のサステナビリティの取り組みをご紹介します。

〈今回ご紹介する企業〉

株式会社 中央環境

ちゅうおう かんきょう

代表取締役

うえだ やす ひさ

上田 恭久氏

取引店／十八親和銀行 長崎営業部

資源環境を推進する廃棄物処理・リサイクルのプロフェッショナル

自然豊かな長崎を後世に残す

当社は1981年有限会社中央環境開発として創業設立しました。現在は長崎市西海町に本社工場を構え、産業廃棄物の中間処理・リサイクル事業を中核として、一般廃棄物・産業廃棄物・特別管理産業廃棄物の収集運搬、一般廃棄物の中間処理、産業廃棄物の最終処分各事業を行っています。また、2013年に発電利用に供する木質バイオマスの証明に係る事業者認定

を受け、廃棄物処理・リサイクルなどの資源循環を推進しています。

これまで培われた技術と経験を活かして廃棄物の収集運搬業及び処分業として、排出される廃棄物の収集運搬及び持込まれた廃棄物の減量化や安定化、安全化等の処理を行い法に遵守し、自主的かつ積極的に取り組んでいます。地球の環境破壊が叫ばれる中、環境への負荷低減を推進するため、当社は法改正等の情報を常に把握した管理運営体制を行うことはこれまで同様、



本社

さらに排出される産業廃棄物や一般廃棄物を再利用、再生利用、熱回収の優先順位でもって高度選別や再生処理を施し、資源の有効利用と自然環境への負荷を低減するリサイクル事業をより

一層推進しています。適正処分として自社の安定型最終処分場にて周辺環境への調和を配慮しながら適正に処分を行っており、また、これらの事業を支えるための研究開発や技術革新を継続的に行うことによって、地域社会に密着した信頼性と確かな技術力を備えた働きやすい企業を目指していきます。

「自然豊かな長崎を後世に残す」というスローガンのもと、廃棄物の再利用等を通して廃棄物を限りなくゼロにしようとする取り組み「ゼロエミッション」にも力を入れ、時代のニーズに沿ったサステナビリティ活動も実践しています。

廃棄物を一元管理

当社は長崎県内でも数少ない準好気性埋立構造（福岡方式）を採用した安定型最終処分場を所有しております。これにより、微生物の集積が計られ、微生物の活性が高まることにより、埋立地の早期安定化に寄与し、硝化・脱窒反応が促進され有機成分と同時に窒素成分が除去され易く浸出水量の変動の抑制や削減を実現しています。一方で、降雨等によって処分場から発生する浸透水は、24時間水質のモニタリングを行っており、月に一度、地下水など処分場周辺の水質

検査も実施しており、環境に影響を与えていないか監視しています。

この最終処分場を所有することによって、個人・事業者から収集運搬および持ち込まれた産業廃棄物・一般廃棄物を一元管理できることにより、①トータルなコスト削減（様々な事業所・作業所の状況に応じた最適な分別・回収方法）の提案、②リサイクル率の向上（きめ細かく選別し、徹底した再資源化）の提案、適正処理（法律に即した収集運搬、再資源化および、関係法令の改正対応など）の提案を実施しています。

環境問題に配慮した経営

これまでの大量生産・大量消費型の経済活動は、大量廃棄型の社会を形成し、健全な物質環境を阻害するほか、気候変動問題、天然資源の枯渇、大規模な資源採取による生息環境の破壊・生物多様性の喪失など、様々な環境問題にも密接に関係しています。資源・エネルギーや食糧需要の増大や廃棄物発生量の増加が世界全体で深刻化しており、一方通行型の経済社会活動から、持続可能な形で資源を利用する「循環経済（サーキュラーエコノミー）（※）」への移行が現実的な課題と認識しています。

同社は、2MWのソーラー発電所を構え、再生可能エネルギーの供給を行っています。また、2006年にエコアクション21の認証登録を行っており、早くから環境経営に全従業員で取り



2MWソーラー発電所

組んでいます。「自然豊かな長崎を後世に残す」というスローガンをもとに、高度選別や再生処理を施し、資源の有効利用と自然環境への負荷を低減するため、法に遵守した廃棄物の適正処理を行うことはもちろんのこと、ゼロエミッションを視野に入れたリサイクル事業、研究開発や技術革新を継続的に行い、地域社会に密着した信頼性と確かな技術力を備えた企業を目指しています。

※従来の3Rの取り組みに加え、資源投入量・消費量を抑えつつ、ストックを有効活用しながら、サービス化等を通じて付加価値を生み出す経済活動

ダイバーシティ実現に向けた活動

同社は、現場の女性や高齢者が活躍しやすいように労働環境を整備しています。具体的には、現場での女性用休憩場の設置を行いました。現在女性従業員のうち、管理職は1名ですが、今後は従業員数含め管理職数の増加を図っていく方針です。また、延長雇用(定年60歳)・再雇用制度(再雇用65歳まで)を整備したことによって、多くの60歳以上の雇用者が在籍しています(現在最高年齢65歳)。今後もダイバーシティを実現すると同時に、同社の持続可能性を高めるための施策を実施・検討していきます。

社会貢献・地域活性化活動

当社は様々な地域活動に参画し、社会貢献活動・地域活性化活動に積極的に取り組んでいます。また、事業基盤の強化及び地域経済活性化を図るためには、取引先や協力会社との連携の維持と拡大が重要であると考えており、社会インフラに携わる企業として、大規模災害などを想定したBCP(事業継続計画)を策定しています。

サステナブルファイナンス

十八親和銀行の「FFG」ポジティブ・インパクト・ファイナンス」を利用

2024年9月に取引いただいている十八親和銀行長崎営業部にて、サステナブルファイナンス(FFG)ポジティブ・インパクト・ファイナンスを利用いたしました。

本ファイナンスは、FFG独自のESG/SDGs評価サービス「Sustainable Scale Index」による評価結果や国際的なインパクト算定ツール

を基に対話を重ね、当社の活動が環境・社会・経済に与えるポジティブならびにネガティブな影響を分析・特定し、ネガティブな効果を低減しながらポジティブな効果を増大(KPIを設定)させることで、当社の持続的な成長につながるよう、十八親和銀行が中長期的な伴走支援を行う商品です。作成いただいた評価書は、当社ホームページ・十八親和銀行のホームページで確認でき



準好気性埋立構造(福岡方式)を採用した最終処分場(安定型)

ますので、ご覧いただければ幸いです。
 〈FFG〉ポジティブ・インパクト・ファイナンスでは、サステナビリティに関する目標を設定する必要があると思いますが、当社では「木くずに關してのリサイクル率100%を維持する」、「固形燃料（RPF）を年間1万5千トン製造する」、「2031年度までに取引先数を10%増加させる」などの6つの目標を設定しました。これらの目標を、社内勉強会を通じて社員一丸となつて取り組んでいきたいと考えております。



〈FFG〉ポジティブ・インパクト・ファイナンス実行の記念楯を贈呈（左から十八親和銀行長崎営業部 三浦部長、上田社長）

株式会社 中央環境

■本社所在地：〒851-3101 長崎市西海町2739番地4

■電話番号：095-884-3229

■事業内容：産業廃棄物処理業



FFGでは企業のESG／SDGsの取り組みを支援しています

FFG公式
チャンネルはこちら



ふくおかフィナンシャルグループ
営業統括部 サステナビリティ推進企画グループ
■お問い合わせ：TEL.092-723-2512

サステナビリティに
関することは
何でもご相談ください

長崎県軟式野球選手権V9



FFGグループ内で活躍する
実業団や社会人チーム、
部活動、個人スポーツ活動を
紹介するコーナーです

十八親和銀行 野球部

The Juhachi-Shinwa Bank Baseball Team

堅実な守りで、勝利を引き寄せる! 伝統の野球部

たかき か ゆきやす
高坂 幸靖 さん
大野支店

たか い こうへい
高井 航平 さん
早岐支店

くり やま かずたか
栗山 和高 さん
大野支店

やまぐち ゆうだい
山口 優大 さん
佐々支店



もりうち りん たろう
森内 麟太郎 さん
佐世保支店

主将

ぬきりょうすけ
貫 亮介 さん
江迎支店

や え るい
八戸 塁 さん
佐世保本店営業部

つじ よしひろ
辻 義大 さん
平戸支店

十八親和銀行野球部は、1948年に創部した70年以上の歴史を持つチームです。活動は、平日夜(火、水、木)の銀行業務終了後(22時まで)と土日の週5日行っています。

2023年11月に開催された「第27回西日本軟式野球選手権大会」では、創部初の全国大会優勝を果たし、十八親和銀行野球部の歴史に華やかな一ページを刻みました。全国大会優勝の反響は大きく、多くの方々に支えられて野球ができていることを改めて痛感しました。

今シーズンは、個々のレベルアップに加え「組織力強化」に取り組んできました。野球は一人だけ強くても勝てません。選手一人ひとりが組織のために行動し、結束しなければ全国の強豪チームとは戦えないのです。伝統があるからこそ、勝たなければいけないプレッシャーもあります。そのため、本音でぶつかり合い、ミスは全員でカバーし、チーム一丸となって勝利を目指し戦ってきました。

今後もスローガンである「常信常勝(常に己を信じ、常に仲間を信じ、常勝を成し遂げる)」をモットーに、更なる組織力強化を図り、長崎県の軟式野球界を牽引するチームとして存在感を発揮し続けます。



前監督 きただ りょうすけ
北田 亮佑 さん
松浦支店

なかた てつぺい
中田 哲平 さん
日野支店

さいどう りゅうたろう
西郷 龍太郎 さん
佐世保本店営業部

新監督 いそ ゆういちろう
磯 祐一郎 さん
日野支店

おおたけ ひろと
大竹 紘人 さん
大塔支店

ありた おうじ
有田 旺司 さん
浜田町支店

とりごえ だいち
鳥越 大地 さん
早岐支店

※所属は2025年2月1日現在

長崎県軟式野球選手権で V9を達成！

Message

前監督兼選手
きただりようすけ
北田 亮佑

■出身校…島原高校↓立教大学
■十八親和銀行 松浦支店所属
■1988年6月14日生まれ

Message

新監督兼選手
いそ ゆういちろう
磯祐一郎

■出身校…長崎西高校↓関西学院大学
■十八親和銀行 日野支店所属
■1990年5月9日生まれ

「第74回長崎県軟式野球選手権大会」決勝戦が2024年11月17日、長崎市のSUNポールパークかきどまりで開催されました。長崎県内の各地区代表と推薦の15チームがトーナメント方式で競

い合い、十八親和銀行は決勝戦で長崎サニクリーンと対戦し、6対0で勝利を収めました。伝統である「守り勝つ野球」を体現し、歴代最長の9年連続33度目の優勝を飾りました。



左.引退試合を白星で飾った北田監督(左端)／右.来シーズンから監督を務める磯選手

2024年度をもちまして野球部を引退することになりました。小学1年生からソフトボールを始め、30年間の野球人生を無事完遂できました。特に当行野球部の14年間は本当に濃い毎日でした。

業務との両立の中、どんなにきつくても己にムチを打ち、練習を継続したことは本当に良い経験です。嬉しい経験よりもつらい経験の方が先にフラッシュバックされますが、それは常に上のレベルを求めて取り組んでいたからだと思います。主将、監督と常に組織の中心で活動させていただき、銀行業務においてもリーダーシップをとることや人財育成に活かすことができています。

野球部は引退しますが、これからも野球部で得た経験を存分に活かし、銀行に貢献していきたいと思っています。そして、大好きな野球部をOBとしてしっかり応援し、支えていきます。これまで支えていただいた行員の方々、そして一番近くで応援してくれた家族、本当にありがとうございました。

また、地域の皆さまにも温かいご支援をいただき感謝申し上げます。今後とも野球部をよろしくお願い致します。



引退試合後、家族と記念写真

2025年度より監督を務めさせていただくことになりました。北田前監督をはじめ、これまで多くの先輩方が築き上げてこられた歴史と伝統のある野球部監督としてのプレッシャーは大きいですが、それをやりがいに変え、良いチーム作りに励んでまいります。

何より、野球部として活動できるのも、当行のみならず地域の皆さまのご支援、ご協力があったものです。日頃より野球部の活動にご理解いただき、心より感謝申し上げます。その感謝の気持ちを胸に、野球部での活動や経験を活かして、部員一同地域社会に貢献できる人財となるよう努めてまいります。また、「常信常勝」のスローガンのもと、結果として皆さまに恩返しができるよう、やれること、やるべきことを一つ一つ丁寧に取り組んでまいります。

今後とも変わらぬご支援、ご声援をよろしくお願い致します。



選手としても活躍。ポジションは外野手



仲間と共に
勝利を切り開く！

常信常勝



2025年度 大会スケジュール

- 4月 第79回国民スポーツ大会 長崎県代表選考会
- 5月 第48回九州連合会長杯軟式野球大会(宮崎)
- 6・7月 天皇賜杯 第80回全日本軟式野球大会 長崎県大会
- 8月 第79回国民スポーツ大会 九州ブロック大会
- 9月 天皇賜杯 第80回全日本軟式野球大会(秋田)
- 10月 第79回国民スポーツ大会(滋賀)
- 10月 第75回長崎県軟式野球選手権大会
- 10・11月 第29回西日本軟式野球選手権大会(愛媛)
- 11月 第15回九州都市対抗軟式野球大会

※予定は変更・中止になる場合がございます



応援よろしくお願いします！

十八親和銀行野球部のホームページはこちら



日本100名城
No.23



昔は観覧車があった!?

1 おだわらじょう
小田原城

【住所】神奈川県小田原市内6-1
【電話】0465-22-3818

2020年2月登城。城下町を取り囲んだ“総構”の壮大な城として有名(写真①)であるが、戦後には天守閣跡に観覧車があったとは驚きだった(写真②)。その後、『古写真で見る幕末の城』(三浦正幸＝監修 来本雅之＝著・編 山川出版社)を購入し、在りし日の姿や現在との違い等を今でも楽しんでいる。



石垣と観覧車(昭和34年)小田原城天守閣所蔵



小田原城HP

お城巡りが趣味の中野支店長が実際に行った日本全国のお城を紹介

Vol.6 関東編

お城巡り



「日本100名城」は公益財団法人 日本城郭協会が2006年に定めた日本の名城100選です。現在は「続日本100名城」も選定されています。



公益財団法人
日本城郭協会 HP

私がお案内
します!



福岡銀行 添田支店
なかの みのも
中野 実 支店長

Profile 福岡県北九州市出身。1998年福岡銀行入行。門司支店を皮切りに箱崎、戸畑、総務広報部、宮崎、柳川支店で勤務。2017年バンコク駐在員事務所所長。2018年から大牟田、香椎支店の副支店長を務めたのち、2022年10月から現職。趣味で2019年11月から3年7カ月かけて「日本100名城」「続日本100名城」掲載の200城を踏破。公益財団法人 日本城郭協会から登城認定を受ける。

日本100名城
No.19



小江戸
情緒満点

2 かわごえじょう
川越城

【住所】埼玉県川越市郭町2-13-1
【電話】049-222-5399
(川越市立博物館)

2021年11月登城(写真③)。江戸幕府における北の防衛ラインとして整備。今も“小江戸”として江戸情緒を残す蔵造りの町並み(写真④)、さつま芋スイーツ店も多く点在(写真⑤)。緊急事態宣言明けのタイミングかつ平日にもかかわらず、多くの観光客で賑わっていた。



川越城HP

映画のモデル城

3 おしじょう
忍城

【住所】埼玉県行田市
本丸17-23
【電話】048-554-5911
(行田市郷土博物館)

2023年2月登城。豊臣秀吉方の大軍勢による水攻めに耐えた、映画“のぼうの城”のモデル城(写真⑥)。ご当地おやつとして有名なフライ(お好み焼?)、ゼリーフライ(おから揚げ?)の名前が気になる! 昼ごはん(写真⑦)/手前がフライ、奥がゼリーフライ。

続日本100名城
No.118



忍城HP



関東屈指の
山城

4 はちおうじじょう
八王子城

【住所】東京都八王子市元八王子町
3丁目、西寺方町、下恩方町
【電話】042-620-7265
(八王子市教育委員会文化財課)

2021年11月登城。八王子と聞くと都会というイメージであったが、さすが戦国の山城(写真⑧)。同じ八王子市の高尾山には多くの観光客や登山客が訪れるが、こちらは素晴らしい景色をひとり占めできる穴場スポット(写真⑨)。



八王子城HP



※本ページの掲載内容は訪問当時のものです。※「日本100名城」は公益財団法人日本城郭協会が定めた呼称です。

長崎だより

長崎の情報を
お届けします

FFG調査月報の姉妹誌「ながさき経済」を発刊している、ふくおかフィナンシャルグループの長崎経済研究所。長崎の旬な情報を提供するコーナー「長崎だより」の今月号は、同研究所の調査研究レポートのなかから、「亀山社中ば活かす会」を紹介しします。

長崎経済研究所による「ながさき経済web」随時更新中!



当研究所が発信する最新の情報をメールでお届けします。

メールマガジンの登録はこちら▶



お問い合わせ

株式会社長崎経済研究所

長崎市銅座町1番11号
十八親和銀行本店内
TEL095-828-8859



ながさき経済web画面

長崎経済研究所とは

長崎県の経済・社会・産業動向などに関する調査研究及び企業経営や県民の生活のお役に立つ情報をご提供するとともに、各種経済・文化団体の事務局活動等を通じて、地域社会に貢献することを目指しております。



亀山社中ば活かす会

長崎経済研究所 調査研究部 泉 猛

「亀山社中は活かす会」は、坂本龍馬ゆかりの「亀山社中跡」の歴史的価値の再発見と地域の活性化を目指して、長崎市の風頭公園に坂本龍馬の像が建立された1989年5月に、長崎市伊良林地区の人々を中心となって結成した有志の集まりです。今年で結成36年を迎えた同会の取り組みを紹介します。

当会について

長崎市の伊良林・風頭地区は、眼鏡橋（国指定重要文化財）から徒歩約20分のところで、幕末の志士・坂本龍馬が設立した日本初の商社「亀山社中」の記念館など、龍馬にまつわるスポットが点在している地域です。休日には全国から多くの歴史愛好家や観光客が訪れており、春の風頭山頂におけるハタ揚げ、夏の精霊流し、秋の若宮稲荷神社の大祭など、昔ながらの町文化が色濃く残っています。

事務局長の真崎康三氏は、「龍馬



亀山社中資料展示場外観 筆者撮影



亀山社中資料展示場内の様子 筆者撮影

ゆかりの『亀山社中』は、地元の人々よりも遠方から訪れる観光客や歴史ファンからの注目を集めていたものの、当時は、まだ、遺構が十分に整備されていなかったため、地域の有志が集まり、歴史的な価値を再発見し、まさに亀山社中を活かして地域の活性化や発展に繋げていきたい、という想いを持って発足した」と語っています。

発足当時のメンバーは30人程度で、2010年放送の大河ドラマ龍

馬伝の頃は100名を超える程でしたが、現在は約50名程となっています。

亀山社中資料展示場

当会は、事情により2006年4月に現在の場所（長崎市伊良林2丁目9-3）に拠点を移し継続して活動しています。亀山社中資料展示場では、幕末に活躍した勤王の志士、幕臣、外国人、長崎の著名人、当時の

幕臣、外国人、長崎の著名人、当時の



風景などの古写真のほか、龍馬の手紙の写しや関係資料など、およそ100点を展示しています。また、龍馬の等身大写真パネルもあり、観光客の記念撮影に活用されるなど好評です。

開館日は、土曜、日曜、祝日の9時～17時(16時30分最終入館)ですが、ゴールデンウィークのほか、長崎くんちや長崎ランタンフェスティバル等の期間中は平日も開館しています(入場料無料)。県内外をはじめ海外からの来場者もあつており、1日当たり120人～130人、年間ではのべ約1万2,000人、1万3,000人が訪れています。が、コロナ禍以前の賑わいが戻るよう、「来て良かった！」の言葉を楽しみに会員一同頑張っています。

地域の行事

当会は、これまでに多岐にわたる活動を行ってきました。なかでも当会が主催している「亀山社中幕末

祭」と「長崎菜の花忌」は、地域の恒例行事となっています。

●亀山社中幕末祭

坂本龍馬の生誕・死没日が11月15日であることから、毎年11月に「亀山社中幕末祭」を開催しています。

コロナ禍で3年間の休止を余儀なくされましたが、2023年11月から、若宮稲荷神社で幕末祭を再開し、当会のメンバーのほか神社関係者の約20人が出席、玉ぐしをささげるなどして龍馬をしのびました。

●長崎菜の花忌

1998年2月には、風頭公園内に立つ坂本龍馬像の前に、作家・司馬遼太郎の作品である『竜馬がゆく』の一節を引用した文学碑を建立しました。それ以来、司馬遼太郎の命日である2月12日前後に、「長崎菜の花忌」を開催しています。

2024年は2月12日に開催しており、地元の長崎市立伊良林小学校の児童や私立・瓊浦高校の生

徒に当会会員も加わって司馬遼太郎作品の一節を朗読しました。最後に司馬氏が愛した菜の花を参加者全員で文学碑に手向け、同氏のご冥福を祈りました。

龍馬のぶーつ像

1995年11月、亀山社中の創設130周年を記念して、同会が「龍馬のシンボル」として亀山社中跡を訪れる人々に長崎の歴史と文化について理解を深め、親しみを持つてもらおうと、道路公園内に「龍馬のぶーつ像」を建立しました。像はブロンズ製で、大きさは縦60cm、幅40cm。靴を履いたままブロンズのブーツを履いて船の舵を握るという全国でも珍しいモニュメントです。

龍馬のトレードマークであるブーツを履くことができる体験型のモニュメントで、舵や旗、ロープなど船を意識した周囲の環境とともに、坂の上で「世界に向けた船出」の雰囲気を感じ出すような長崎らしさ

があります。

これらが総合的に評価され、「龍馬のぶーつ像」は平成7年度長崎都市景観賞テーマ部門「歴史ロマン賞」を受賞しています。

当会では、この伊良林・風頭地区を市民・観光客ともに更に楽しめる散策ゾーンとして活かすべく、住環境の整備や文化遺産の活用などのほか、この一帯の散策路を「龍馬がゆく道」と名付けて、多くの人に訪れてもらえるように努めています。

この地を歩いて巡り、歴史の息を感じてみてはいかがでしょうか。



龍馬のぶーつ像 筆者撮影

九州の星

Star of Kyushu

| 93 |

頑張るあなたを
応援するコーナーです

オレは生まれも育ちも朝倉の豊屋ラッパ
ラッパで豊の魅力を世界に発信するYO!



畳職人& 畳屋ラッパー



徳田 直弘

TOKUDA Naohiro

Age 34

福岡県朝倉市甘木出身／在住
株式会社徳田畳襖店
専務取締役／四代目後継者
国家資格 一級畳製作技能士
畳屋ラッパー

徳田畳襖店HP



個人 HP



▲い草にアクリル絵の具をつけて描く「TATAMI ART®」



▲徳田幸生社長(父)、徳田依子常務(母)と一緒に店の前で記念撮影

畳屋ラッパー誕生までのヒストリー

福岡県朝倉市で120年にわたり地域に愛されてきた畳屋「徳田畳襖店」。4代目の徳田直弘さんは、畳屋ラッパーとして畳の文化を広める活動をしている。

もともと畳屋を継ぐつもりはなく、工業高校を卒業後は半導体関連メーカーに就職した。しかし、「悔いの残るような人生を送りたくない」と思い、1年で退職。音楽の道へ進むことを決意した。福岡市のボーカルスクールに通っていた際、講師から言われた言葉が転機となる。

「歌う畳屋になって、畳業界を盛り上げたい」

その言葉に半信半疑でありながらも、畳のラップを完成させた。ライブで初

披露すると、観客が笑顔になり会場が沸き立った。「畳の歌で人を喜ばせることは、自分にしかできない」と気付いた瞬間だった。

21歳の時、父に「畳屋を継ぐ」と宣言。普段は畳職人として働く傍ら、ラッパーとしても活躍。2021年からは、い草を筆代わりにしてキャンバスに絵を描くアートも発表し、博多阪急などで個展を開いて注目を集めている。現在は朝倉市魅力発信アンバサダーや、あさくら観光協会理事としても奔走する日々だ。

畳とラップ、一見異なる世界だが、その根底には「地域愛」「人との絆」がある。徳田さんはこれからも、今までにない形で畳の魅力を発信し続ける。



▲ドイツ・マイセン窯 《色絵花文輪花皿(柿右衛門様式)》
18～19世紀 H3 φ22.2cm 高台:h0.5 φ12.3cm

十八
親和

Juhachi
Shinwa
Art Gallery

アート
ギャラリー

学芸員
便り

当館で所蔵する作品を紹介します

今回ご紹介する《色絵花文輪花皿(柿右衛門様式)》はドイツのマイセン窯で焼かれたものです。

17世紀後半のヨーロッパでは、王侯貴族を中心に中国や日本の磁器が大流行し、白い地肌に色鮮やかな絵付けを施した多種多様な磁器を輸入していました。その後、一大コレクションであったザクセン選帝侯フリードリヒ・アウグスト1世が磁器製作の研究を命じたことを契機に、18世紀前半に現在のドイツ・ドレスデンでマイセン窯が誕生し、薄くて硬い磁器がヨーロッパでも作られるようになっていきます。

本作は、白磁の平皿に花や蝶が色鮮やかに描かれ、茶色

で縁取られた口縁が全体を引き締めています。白磁の白さを活かした余白や非対称に描かれた文様など日本的な構図の美しさが見られる一方で、花や蝶の表現にはヨーロッパ絵画のような華やかさも感じられます。

現代の日本でも親しまれる高級食器メーカー「マイセン」誕生の背景には、肥前地域の窯業文化の歴史があり、独自のデザインや技術を発展させていく過程には、職人たちのものづくりの精神が息づいています。本作は肥前地域の陶磁器を産地別にご紹介する陶磁器展示室2にて公開しています。

(十八親和アートギャラリー学芸員
藤松綾子)

十八親和
アートギャラリー

開館時間：10:00～16:00(入館は15:30まで)

休館日：日・月・祝日、年末年始(12/30～1/4)

※土曜日が祝日の場合は開館

長崎県佐世保市島瀬町4-24 十八親和銀行島瀬ビル1F

鑑賞無料

TEL0956-23-4856

西肥バス島瀬町バス停から徒歩3分

JR佐世保駅から徒歩約20分

